

2021年度 青山学院大学 ボランティアセンター活動報告書



AOYAMA GAKUIN UNIVERSITY

2021 年度ボランティアセンター活動報告書

目 次

1. 刊行に寄せて	1
2. ボランティアセンターについて	7
3. ボランティアセンター事業	
《ボランティアプログラム》	
Aoyama Campus Green Up Project	9
相武台団地活性化プロジェクト	10
カンボジア日本語サロン	11
自然体験プログラム～なな山緑地～	11
藤野プロジェクト（里山体験ツアー）.....	12
もしもプロジェクト青学	12
渋谷区こどもテーブルボランティア	13
《イベント》	
学生ボランティア団体合同説明会	14
渋谷区版こども食堂「こどもテーブル」を知ろう！	15
オンライン ボランティアカフェ	16
AGU ヒューマンライブラリー	17
こどもテーブル講演会 & 学生ボランティア報告会	18
障がい WEEK	19
《講座・セミナー》	
災害救援ボランティア講座	21
認知症サポーター養成講座	22
手話コミュニケーション講座	23
国際協力プランナー入門	24
渋谷区こどもの居場所セミナー	25
防災ボランティア講習	25
《各種サポート制度》	
各種サポート制度	26
ボランティア・プロジェクト・サポート制度（ボラサポ）.....	26
《「コミュニティサービス」科目の運営補助》	
「コミュニティサービス」科目の運営補助.....	31
《サービス・ラーニング科目への協力》	
2021 年度 サービス・ラーニング科目の実施概要	32
After Service-Learning（サービス・ラーニング授業後の実践）に 参加した学生の気づきと学び	33
《外部との連携・協力等》	
金沢アウトサイダー・アート・プロジェクトとの協働	35
藤野プロジェクト（地産ガチャ販売）.....	36
学生×子どもの居場所づくりセミナー	36
塩竈市市制施行 80 周年式典「特別表彰」受賞	37
2021 年度大学基準協会での評価	38

市民協働勉強会の開催	38
4. 学生の活動	
《学生スタッフ企画》	
難民プログラム	39
福祉プログラム	40
《AOGAKU ボランティアネットワーク》	
青学生 SDGs 意識調査 2021 (SANDS)	41
オンライン講演会と連続講座の開催 (きすあに)	42
TsunAGU ボランティア愛好会×イチナナ食堂 期間限定企画コラボ	43
教科書回収活動 (STUDY FOR TWO AOYAMA)	44
5. 資料	45
5.1 ボランティアセンター利用状況	45
5.2 ボランティアセンター規則	53
5.3 ボランティアセンター運営委員、実務委員、学生スタッフ	57
5.4 ボランティアセンターを支えてくださった皆さま	
提携・協力団体	58
そのほかお世話になった皆さま	59

1. 刊行に寄せて

センター長挨拶

「拡大していく活動と受賞の喜び」



ボランティアセンター長 飯島 泰裕
(社会情報学部教授)

青山学院大学ボランティアセンターは、ボランティア活動を通じて豊かな人間性と独創性を備えたリーダーシップを発揮する人材を育成する目的で、2016年10月に青山キャンパス、2018年4月に相模原キャンパスに設置されました。このミッションを果たすために地域や自治体、NPO/NGOと繋がりながら様々なボランティア企画を立て、学生及び教職員に参加機会を提供しています。

2021年度も、まだまだコロナ禍の真っ只中にある1年でした。海外へ行くことは困難でしたが、ICTの力を活用した活動と、対面であっても正しい予防策を行えば、色々と活動はできる状況となってきました。

この結果、街中清掃 Green Up Project、手話コミュニケーション講座、自然体験プログラム、相武台団地活性化プロジェクト、オンライン日本語サロン、渋谷区版こども食堂「こどもテーブルを知ろう」、国際協力プランナー入門、認知症サポーター養成講座、防災ボランティア講習などを実施しました。災害ボランティアから発したボランティアセンターですが、大変幅の広い活動をしている昨今となっています。今年度、私は相模原市藤野地区の里山体験ツアーに参加させて頂きました。竹細工で、コップや箸を作ったり、里山の植物を観察したりしたのですが、学生が学部や学年を超えて交流する姿に、久しぶりにホッとして嬉しくなりました。また、高度経済成長期に発展した相模原市相武台団地ですが、現在は高齢者世帯の多い地域となっています。そこへ青学生が高齢者に寄り添う活動を始め、徐々に明るさが芽吹いているように感じます。

また、ソーシャルビジネスとして、金沢 Outsider Art Project や渋谷区のシブヤフォント（障害者のデザインセンスを活かした自立支援）、相模原市藤野地区地産ガチャなどの活動も行いました。学生が、障害者のデザイナーの作ったデザイン画をもとに、プロモーション用の動画を作成したのは、びっくりしました。デザイン画では止まっている、動物たちが動き出すのです。素晴らしい才能を持った青学生がいることに感心させられた場面でした。一方、街中を見ると、いろいろな所にガチャが散見されますが、地域のちょっとしたものをガチャで販売すると、ビックリするほどの売り上げがありました。青学生の流行り物に敏感な側面も感じた次第です。

さらに、嬉しい出来事もありました。2021年11月23日に開催された「塩竈市市制施行80周年式典」にて 青山学院大学が「特別表彰」を受賞しました。これは、本学が2012年から取り組んできた学生たちのボランティア活動が市の復興に寄与したと、その功績が認められたものです。塩竈市におけるボランティア活動は2012年8月に始まり、夏期休暇や春期休暇を利用して現地滞在型のボランティアプログラムを実施し、これまでボランティア活動のために塩竈市に赴いた青学生は述べ700名弱に上ります。今後も、さらなる塩竈市の発展に向けて、ボランティア活動を通じた協力を考えています。

こうした活動の他に、青山スタンダード科目の「サービス・ラーニングとしてのボランティア活動」「サービス・ラーニングⅠ、Ⅱ」、社会情報学部科目「コミュニティサービス」について実施協力を行いました。より多くの青学生に、ボランティア活動を知ってもらい、社会への貢献を考えてもらうための教育研究です。こうしたスピリッツの上に、専門科目で学ぶ知識や技能、研究が加われば、素晴らしい成果に結びついていきます。

そして、公益財団法人 大学基準協会より大学評価において、ボランティアセンターの活動は、特筆するに値すると、高い評価を得ました。誠に嬉しいことです。ボランティアセンターの活動は、まさに、「地の塩、世の光」への道です。コロナ禍のこんな時代ですが、この道をたどり、まだまだ発展していきます。このため、2022年4月1日より、シビックエンゲージメントセンターとして生まれ変わります。今後も皆様のさらなるご支援ご協力を切にお願いいたします。

副センター長挨拶

「センターの高さと広がり」



副センター長 大宮 謙
(社会情報学部教授)

副センター長に再任いただき、もう2年間、センターの働きに関わらせていただくことになりました。引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

私は、大学宗教主任(チャプレン)の一人ですので、宗教センターにも関わりがあります。学内には、さらに学生相談センター、ジェンダー研究センター、障がい学生支援センター、保健管理センターなど多岐に渡るセンターが活動しています。

野球ではセンターというポジションはチームに一人ですし、歌手のグループでセンターを獲得するためのバトルが話題になったこともありました。

「センターを目指す」、「てっぺんを取る」というモチベーションの持ち方もあるとは思いますが、ここにもあそこにもセンター(中心)があり、人が集まり、活動が生み出される。その中で、一人では実現や実行が難しかったことが形になり、必要なところに手が差し伸べられ、無力感、孤独感に負けそうになっていたことに希望の光が射し込む。そして、人の温かさ、自然の豊かさを実感する。そのような働きの一翼を4月から改組されたシビックエンゲージメントセンターも引き続き担って行ければと願います。センターの使命に基づく高みを目指しつつ、裾野を広げていければと思います。

シビックエンゲージメントセンターの取り組みの一つサービス・ラーニングでは、地域の活動団体、ソーシャル・ビジネス企業の皆さまに引き続きお世話になります。センター全体としても、より豊かな協力関係を多くの皆さまと築いて行ければと思います。

青山学院は「地の塩、世の光」をスクール・モットーとし、「サーバント・リーダー」を世に送り出すことを願いつつ教育、研究活動を行っていますが、シビックエンゲージメントセンターの働きによって、両キャンパスの地域の皆さまに、また全国の皆さまに、「あって良かった青山学院」、「イザという時に頼りになる青山学院」と思っただけの存在に、さらに近づくことができれば願っています。

引き続き、ご支援、ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

ボランティアコーディネーター

ボランティアコーディネーター 佐藤 亜希

2年目に突入したコロナ禍におけるボランティア活動でしたが、改めて学生たちの適応能力の高さと創造性の豊かさを強く感じた一年となりました。学生たちが企画し、著名な方を招いて開催したオンライン講演会（学生スタッフ難民プログラム、動物愛護団体きすあに、ボラサポ・ジェンダー平等シンポジウム）やキャンパス周辺の地域防災（もしもプロジェクト）などの取り組みについて、本報告書を手に取ってくださる全ての方にお届けできれば幸いです。

ボランティアコーディネーター 秋元 みどり

コロナ禍でのサービス・ラーニングの試行錯誤を経て、あらためて大学における地域連携学習や実践型科目の目的を見直すことができ、また、新たな連携による成果を生み出すこともできました。学生の主体的な社会参加をささえ、導くことを通して、NPOや地域の方々と共に学び育つことのできるセンターづくりを目指してまいります。

ボランティアコーディネーター 島崎 由宇

昨年度に続き様々な制限や変化の中での一年となりましたが、その状況を前提により学生と地域がつながるための取り組みを行ってまいりました。社会的困難の中でも社会課題に目を向け、それを自分事として捉え、できることから活動に取り組む学生たちも多く、そうした姿に私自身も学ぶことが多くありました。今後も学生たちに寄り添い、地域と共に在るセンターを目指して尽力して参ります。

学生生活部学生生活課 ボランティアコーディネーター 中尾 匠吾

ボランティアセンターが開設した2016年10月からあっという間に5年以上が経ちました。その間、コーディネーター等の人員が強化され、以前とは比べ物にならないほど多様な取組ができるようになったことは感慨深いことであり、開設当初から一職員として携われたことに感謝いたします。これがボランティアセンターとして最後の報告書となりますので、ぜひご覧ください。そして新たな組織であるシビックエンゲージメントセンターもどうぞよろしくお願い申し上げます。

ボランティアコーディネーター 三神 憲一

なかなか先の見えない状況ではありましたが、コロナ禍でも活動に取り組めるように工夫を凝らしたり、センターの改組へ向けてプロジェクトを実施したりと、新しい事への挑戦が多い一年であったように思います。また、センター事業を通じて相模原市の魅力を発見したり、地域に根差した活動に真剣に（そして楽しく）取り組んでおられる経験豊かな方々ともお会い出来た一年でもありました。こうした繋がりが、今後のセンターにおける市民活動の要になると感じております。引き続きご支援・ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学生スタッフ共同代表挨拶

学生スタッフ共同代表 田中杏花

(教育人間科学部心理学科 3 年)

私が学生スタッフとして活動した 3 年間で、ボランティア活動に取り組むにあたり最も大切だと感じたのは、ニーズを掴む力です。今、どこで、誰が、何を必要としているのか、といった情報を自らの手で掴み、それに合わせた企画を作り上げていくことに、難しさややりがいを感じながら活動してきました。さらに、ニーズは時代の流れに合わせて変化するものであると知り、コロナ禍によって特にそのことを実感させられました。そうした移りゆく時代の中で、「今」の情報を掴むことは若者の得意分野であるからこそ、学生スタッフという役割が存在しているのだと考えます。学生という立場を上手く生かし、今後も自分ができることを探していきたいと思います。

学生スタッフ共同代表 小田佳祐

(法学部法学科 3 年)

まず、この 1 年間、無事にここまで活動出来たことに感謝です。コロナ禍が始まり、2 年目の今年度も従来通りのボランティアが出来ず、新たな形を模索する 1 年となりました。実際に現地に行ってボランティアする機会が減少する中で、ボランティアの場が徐々にオンラインに移ってきたようにも感じました。それに伴い、直接的な支援活動よりも、情報発信やアドボカシー活動を通じた支援活動が発展したと思います。当然ながら、社会が抱える問題の発信が達成されたとしても、その問題自体が解決されるわけではありません。今年度は、新たな試みができ、ボランティアの形を発展させられた反面、様々な苦悩を覚えた 1 年でもありました。

今後、ボランティアセンターはシビックエンゲージメントセンターへと生まれ変わります。私は、この「シビックエンゲージメント」こそ、ボランティアの新たな形になるのではないかと思います。これからも、現場と関わりつつ、自分達の生活圏、コミュニティにも変化をもたらせられるよう、考え続けたいと思います。

学生スタッフ共同代表 柳原果歩

(経済学部経済学科 3 年)

前例に無い状況の中でこの一年を乗り越えられたのは、ひとえに各プログラムやコーディネーターの方々の尽力があってこそと感じております。皆様お疲れ様でした。

現地訪問が出来ず、人も集まらない。思い描いていたボランティア活動が困難な中で、オンラインのディスカッションや講談の場の設置など、各々が出来る限り企画と実施を行うところを見してきました。ミーティングはまるで霧の中を藻掻くような、自分達に出来ることは何なのかをひたすらに悩むような、大変な時間だったと思います。楽しさや充実感よりも苦悩を感じる事が多い一年だったと思いますが、何が最善かわからない中で日々考え続けた皆さんの課題発見能力や忍耐力は、今後あらゆる場面で発揮されることと思います。

ボランティアセンターはシビックエンゲージメントセンターとして新しい形、新しい体制となりますが、ボランティアに携わるための手段・方法が変わっただけで、その本質は変わらないと感じています。自分自身がしたいことは何か、実現したい・貢献したいことは何か。体制は変わっても、時に原点に立ち返り、地域社会や環境の一助となれるような方法を模索し続けていきたいです。

2. 青山学院大学ボランティアセンターについて

青山学院大学ボランティアセンターは青山学院のスクール・モットーである「地の塩、世の光」を体現する人物、サーバント・リーダーの育成に向けて、実践するボランティア活動を促進させる目的で設立しました。

2022年4月には青学生が主体的に展開してきたボランティア活動を発展させつつ、正課との接続を強化させるため、シビックエンゲージメントセンターへと改組します。

■設 立 2016年10月1日設立（2022年4月シビックエンゲージメントセンターへ改組）

■所在地 青山学院大学青山キャンパス1号館1階
青山学院大学相模原キャンパスF棟2階

■センターミッション

- ①学生・教職員の自発的な社会貢献活動への参画を促進すること
- ②大学の持つ専門性や強みを活用してボランティア活動の社会的効果を向上すること
- ③社会貢献活動への参加にともなう教育的効果を向上させること

■事業内容

A. 活動支援分野（直接的支援）

- （1）ボランティアへの参画機会の提供
- （2）ボランティア活動の実施促進
- （3）ボランティア活動に参加する学生・団体の能力強化

B. 環境整備分野（間接的支援）

- （1）ボランティア活動に関する学内外の専門家・関連団体との連携の促進
- （2）ボランティア活動の社会的・教育的効果の評価と勧告
- （3）ボランティア活動をめぐる社会的価値の創出と発信



【青山キャンパス】



【相模原キャンパス】

3. ボランティアセンター事業

ボランティアプログラム

事業名	Aoyama Campus Green Up Project
日時	2021年4月24日(土) 14:00～16:00
実施場所	青山キャンパス周辺ならびに1号館ラウンジ
参加者数	19名(参加者12名、サークル7名)
内容	年度初頭のボランティア体験プログラム、そして新入生歓迎イベントとして実施。昨年同様プログラム企画はグリーンバード青学ゴミ拾い愛好会とボランティアセンターの共催とし、両者が役割分担する形でいった。 今回の目的の一つ「新入生同士の交流の創出」を実現するため、運営側が積極的に参加者に話しかけるだけでなく、清掃活動中のメンバー入れ替えなど工夫を凝らした。また清掃活動後の交流会では、よりカジュアルな雰囲気に参加者同士に会話を楽しんでもらうため、グループワークを行った。グループには必ずグリーンバードの運営メンバーが入り、参加者同士が楽しく交流できるようファシリテートを行った。
成果	活動中は笑顔が絶えず、所属の学部やキャンパスに関係なく、積極的にコミュニケーションが生まれていた印象だった。参加者の数名に話を伺ったところ、「大学でボランティア活動に参加したいと思っていたので、ゴミ拾いはその第一歩として良いきっかけになった」、「ゴミ拾いのハードルの低さを利用してたくさんの学生と交流できて良かった」などの声をいただき、充実した活動となった。 活動終了後にはグリーンバードへの入会希望者が3名いたことなど、継続的なボランティア活動への機会提供となった。
協力団体	公認愛好団体グリーンバード青山学院大学ゴミ拾い愛好会



事業名	相武台団地活性化プロジェクト
日時	(説明会) 4月27日(火) 18:30～20:00 (事前研修) 5月11日(火) 18:30～20:00 (受入先との面談) 5月下旬～6月上旬 (事業所での活動) 7月1日(木)～12月27日(月) (認知症サポーター養成講座) 10月20日(水) 18:30～20:00 (共和中学校福祉体験講座) 12月2日(木) 13:00～15:00
実施場所	オンライン、認知症対応型デイサービスおとなり ほか
参加者数	7名
内容	相武台団地商店街に4月よりオープンした認知症対応型デイサービスおとなりを拠点とし、高齢化のすすむ同団地の活性化を目的としたプロジェクト。5月下旬から活動をスタートする計画であったが、新型コロナウイルス感染症対策として課外活動に制限がかかっていた為、オンラインで行なえる活動(認知症に関する勉強会や自己紹介カードの作成等)から開始した。7月1日以降は受入先での活動を始め、学生一人あたり1～2回/週の頻度で継続した。また、活動のアウトプットとして、認知症サポーター養成講座や、相模原市共和中学校の福祉体験講座に参加した。活動最終日には、学生の発案によるレクリエーション企画としてスノードーム制作が実施された。当日は施設利用者の方々に加えて近隣の小学生も加わった。
成果	コロナ禍でメンバーの集まる機会が極めて少ない活動となった。LINEグループや活動日誌等を利用してチーム意識を持ち、活動の継続性を保ったが、対面での活動が制限されていたことが大きな壁となり、プロジェクト開始当初に想定していた地域全体を対象とした活動への発展には至らなかった。しかしながら、活動を見守ってくれていた市内中間支援団体のお声がけから、相模原市の実施している「地域活動・市民活動ボランティア認定制度」の団体候補として話が進み、認定されることとなった。
学生の声	- 受け入れ先のスタッフの方々は、私たちをとても温かく迎え入れて下さり様々な配慮や助言をして頂き、とても感謝しています。 - 最初は上手くやっていけるか不安もあったが、おとなりのの方々のおかげで充実した半年を過ごすことができた。 - 認知症のイメージが変わるとともに、「その人らしく」生きることができることの大切さ、「頼ること」の大切さ、一緒に楽しむことの大切さなどいろいろなことを学び、感じました。
協力団体	認知症対応型デイサービスおとなり / 相模原市社会福祉協議会



事業名	カンボジア日本語サロン
日時	①マンゴースクール 毎月1回実施（木曜日 19～20時）2021年9月から開始 ②くっくま孤児院 毎月2回実施（月曜日 12～13時）2021年10月から開始
場所	オンライン（Zoom）
参加人数	①5名 ②4名
内容	①シェムリアップ近郊の農村エリアにあるフリースクール（Globe Jungle 運営）の先生方に向けた日本語会話レッスン活動、異文化交流。 ②プノンペン孤児院（Globe Jungle 運営）の子どもたちに向けた日本語読み書きレッスン活動
成果	コロナ禍で開始した海外とのリモート活動が1年以上継続し、学生とカンボジア現地の人々や Globe Jungle スタッフとの関係構築もできつつある。限られた学生メンバーであるものの継続的な関わりを持つことによって、カンボジア側の理解度や希望を取り入れた授業内容の工夫や新たな試みが毎回実施されている。今年度から孤児院の子どもを対象とした活動も始まり、Globe Jungle スタッフとの対話を通して孤児院の子どもたちや社会的背景、日本語を学ぶ意義についても理解を深める場となっている。
協力団体	NPO 法人 Globe Jungle

事業名	自然体験プログラム ～なな山緑地～
日時	1回目：2021年7月11日（日）9：00～15：00 2回目：2021年11月14日（日）9：00～15：00
実施場所	なな山緑地（東京都多摩市）
参加者数	1回目：7名（申込者は10名） 2回目：10名（申込者は12名）
内容	昨年11月にも実施した東京都多摩市にあるなな山緑地での1 Day グリーンボランティア活動。今年度は5月、7月、9月、11月の年4回の開催予定だったが、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置の影響で2回の開催となった。 毎度、活動はなな山緑地の会の定例活動時に行っており、朝礼時に自己紹介した後、緑地の会の方になな山ツアーをしていただいてから作業を行っている。7月は気温の上昇と共に生い茂るシノダケ刈りやコナラの木を枯らす害虫カシナガの捕獲調査を2グループに分かれて行った。11月は主に落ち葉掃きや腐葉土やカシナガトラップの撤去作業などを行った。
成果	活動後の振り返りでは、活動前後での自身の意識の変化について一人ひとり語ってもらった。大半の学生が活動前に想像していた以上に傾斜がきつく、歩くのも大変だったという述べる一方で、緑地の会の方の親切な対応により楽しく作業できた（満足感）、幼少の頃慣れ親しんだ自然環境に再び触れることができたこと（充実感）、など一定の達成感を得られたようであった。今後は参加者同士の交流機会なども工夫し、リピーターの増加に繋げたい。
協力団体	なな山緑地の会



事業名	藤野プロジェクト（里山体験ツアー）
日時	10月23日（土）9：30～16：00
実施場所	相模原市緑区藤野地域
参加者数	10名
内容	“芸術のまち”“都心に一番近い里山”といった名称をもつ相模原市緑区藤野（旧津久井郡藤野町）について知り、青学生の地域に根差した社会貢献活動を広げていくことを目的としたプロジェクト。今回は実際に藤野の自然に触れ、地域の方々と交流をするなかで、藤野の魅力について体験する1day ツアーを実施した。受入宅では竹を削ってコップをつくったり、川釣りや里山散策を行なった。また、藤野観光協会から「若者の視点で藤野の魅力を広めて欲しい」との要望をいただいていたので、参加学生はツアー中のアクティビティを随時撮影し、Instagram等のSNSで発信した。また、終了後には駅前に新設された交流拠点「森のイノベーションラボ FUJINO」の見学を行なった。
成果	参加学生は（コロナ禍で制限されていた）対面での活動を求めているようで、参加者どうしですぐに打ち解け、様々な体験を楽しんでいた。初めての試みであったが、藤野観光協会の丁寧な段取りにより、充実したツアーとなった。今後はこうした体験を通して藤野地域での活動が広がる「仕組み」をつくっていくことが課題である。
協力団体	一般社団法人 藤野観光協会



事業名	もしもプロジェクト青学
日時	2021年7月～2022年3月
実施場所	オンラインや青山キャンパス
参加者数	17名
内容	渋谷の街から発信する都市防災プロジェクトとして「もしもプロジェクト」が渋谷を拠点に活動する3組織（こくみん共済 coop、渋谷区観光協会、渋谷未来デザイン）により2021年3月に始動。そんな「もしもプロジェクト」のコンセプトに賛同した青学生有志が集まり「もしもプロジェクト青学チーム」を2021年7月に発足した。
成果	コロナ禍ということもあり、オンラインでミーティングを重ねつつ、SNSで身近な防災情報を発信したり、渋谷・原宿エリアの避難経路を紹介するムービーを作成した。2021年12月にはこくみん共済 coop 本部を訪問し、2022年以降の活動拡大に向けて意見交換を行った。
協力団体	こくみん共済 coop、渋谷区観光協会、渋谷未来デザイン



事業名	渋谷区こどもテーブルボランティア
日時	通年
場所	各こどもテーブル活動先
申込件数	55 名
内容	渋谷区社会福祉協議会が運営する渋谷区こどもテーブルの活動先 18 か所に対する学生ボランティア募集の告知協力と連絡調整等コーディネートを行った。 < 活動紹介先 > ・ なつつの木・代々木こどもテーブル～春の小川～・美竹の丘こどもテーブル ゆめとびあ・パール子どもテーブル活動・恵比寿じもと食堂・上富ダイニング・Mama's kitchen・子どもと一緒に遊び隊・なな色カフェ・おんがく な・か・ま・こどもテーブル 渋谷のラジオの教室・みんなの世界テーブル・みんなの食卓・恵比寿ママ食堂・渋谷区おばさん・ささはたっこ・みらい区・渋谷おやこサロン
協力団体	渋谷区社会福祉協議会

渋谷区



こどもテーブル
KODOMO TABLE

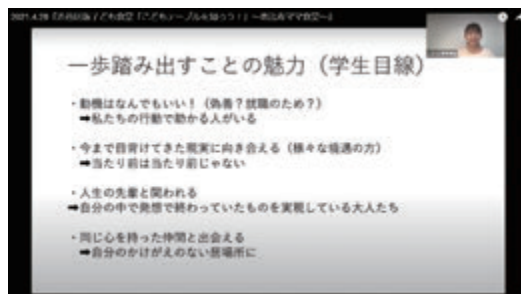


イベント

事業名	学生ボランティア団体合同説明会
日時	オンライン形式@ Remo : 2021 年 4 月 10 日 (土) 14:00 ~ 17:00 対面式@ 17510 (青山) : 2021 年 4 月 14 日 (水) 15:30 ~ 18:30 対面式@ F405 (相模原) : 2021 年 4 月 15 日 (木) 16:00 ~ 18:00
参加人数	4/10 80 名 (参加者 49 名、サークル 31 名) 4/14 76 名 (参加者 44 名、サークル 32 名) 4/15 72 名 (参加者 55 名、サークル 17 名)
内容	4 月 10 日 (土) にオンラインでの合同説明会を、4 月 14 日 (水) には青山キャンパス、翌 15 日 (木) には相模原キャンパスで開催した。 オンライン説明会は日本財団学生ボランティアセンター (Gakuvo) に協力いただき、Remo というツールを初めて活用した。Remo は参加者が自由にテーブル (グループ) を移動できるため、ボランティア団体の活動紹介プレゼンの後は、フリートークセッションとして参加者が各サークルのテーブルを訪れる形での個別相談を行った。 オンライン版合同説明会の詳しい模様は Gakuvo のウェブサイトにも掲載されている。 https://gakuvo.jp/report/11576.html
成果	2 年ぶりの開催となった対面式の説明会では青山キャンパスで 10 団体、相模原キャンパスで 5 団体に参加し、団体の活動紹介を行った。サークル紹介を聞く参加者の熱心な様子だけでなく個別相談ブースの設営など、サークル内での協力姿勢も垣間見られた。特に相模原キャンパスの回はこれまで実施した中で一番盛況な説明会となりプレゼンテーションと個別相談の 2 本立てで、真剣に説明を聞く参加学生と、丁寧な問いかけを心がける学生団体のメンバーが印象的であった。
協力団体	日本財団学生ボランティアセンター (オンラインツール Remo の提供)



事業名	渋谷区版子ども食堂「こどもテーブル」を知ろう！
日時	第1回 2021年4月28日(水)12:30～13:30 第2回 2022年2月10日(木)14:00～15:00
場所	Zoom(両日)
参加人数	第1回 29名(申込49名) 第2回 17名(申込30名)
内容	渋谷区こどもテーブル事業の運営主体である渋谷区社会福祉協議会による事業紹介とこどもテーブル団体による活動紹介を含めたオンラインイベントを開催。 第一回 恵比寿ママ食堂、第二回 渋谷区おばさん その他、こどもテーブルの魅力発信を行う学生団体しゅっこのメンバーから、こどもテーブルボランティアの活動内容、活動動機、やりがいなどを学生目線で語っていただいた。
成果	申込、参加者数から学生の関心の高さがうかがえた。団体の方や学生から活動内容について細かく説明されたことで、こどもテーブルの雰囲気や学生としての参加の在り方を示していただいたことで、参加後にボランティアを希望する学生も多くいた。一方でコロナウイルス感染拡大の影響から実際の活動へと十分に繋げることが叶わなかった。 活動報告「こどもテーブルを知ろう！～恵比寿ママ食堂～」(4月28日) https://volunteer-aoyamagakuin.jp/seminar_report/ebisumama/
協力団体	渋谷区社会福祉協議会、恵比寿ママ食堂、こども食堂渋谷区おばさん、青山学院大学学生ボランティア団体しゅっこ



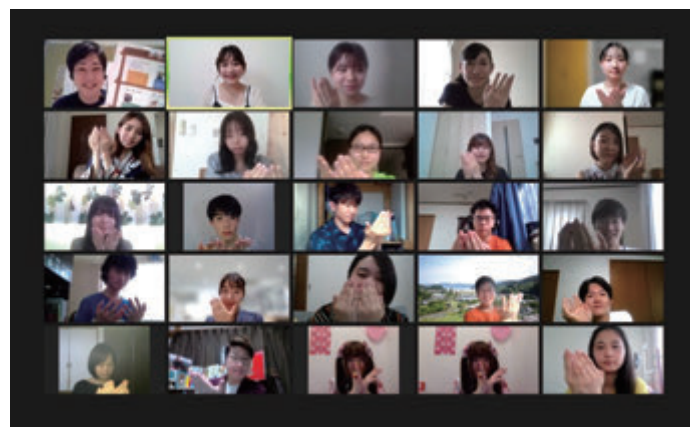
事業名	オンライン ボランティアカフェ
日時	第1回：2021年5月25日（火） 12:35～13:15（相模原） 第2回：2021年6月16日（水） 12:35～13:15（青山） 第3回：2021年7月13日（火） 12:30～13:20（相模原） 第4回：2021年9月28日（火） 12:35～13:15（相模原） 第5回：2021年10月28日（木） 12:35～13:15（青山） 第6回：2021年11月30日（火） 12:35～13:15（相模原） 第7回：2022年2月2日（水） 15:00～16:30（青山）
実施場所	オンライン（Zoom）
参加者数	第1回：9名、第2回：22名、第3回：10名、第4回：7名、第5回：6名、第6回：8名、第7回：17名
内容	ボランティアには興味があるけれど、なかなか参加の一步を踏み出せない学生向けに、社会課題に取り組む団体・個人の体験談を語ってもらうオンラインイベント。各回のテーマとゲストスピーカーは次の通り。 第1回：「はじめの一步を踏み出そう！地域とボランティアでつながるには？」相模原市社会福祉協議会中央ボランティアセンター 第2回：「パートナーシップでサステナブルファッションを広げる」地球環境パートナーシッププラザ 第3回：『中山間地域の先駆エリア「藤野」が面白い！！地域課題を特産品に！？地域に楽しくアクセスする方法』武笠太郎さん（藤野在住・地産ガチャ開発運営人） 第4回：「現代の寺子屋！？地域子育て支援で求められるボランティアとは？」松山新さん（株式会社こみふく） 第5回：「ごみ問題最前線 ～企業や自治体と連携した取り組みについて～」株式会社ピリカ 第6回：「地域内外の交流拠点『森のイノベーションラボ FUJINO』で活動してみませんか？」相模原市役所区政策課 第7回：「アフガニスタン・ピースアクションの物語」小野山亮さん（平和村ユナイテッド）
成果	緊急事態宣言により課外活動に制限がかり、事業の見送りや活動を中止せざるを得ない状況が続いた中で、定期的な実施できる事業として定着・発展してきた。所属キャンパスを越えて参加することが可能になったことや、物理的な定員を設ける必要がなくなったことにより、今後は参加者の増加を視野に入れた実施が課題の1つと言える。



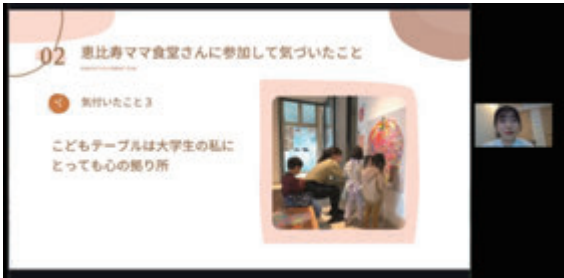
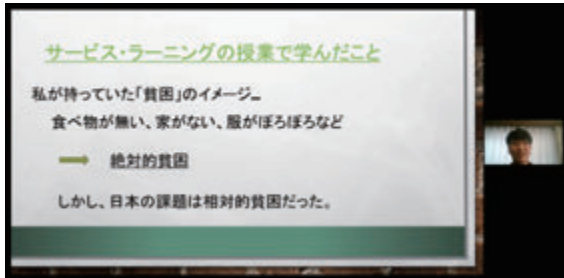
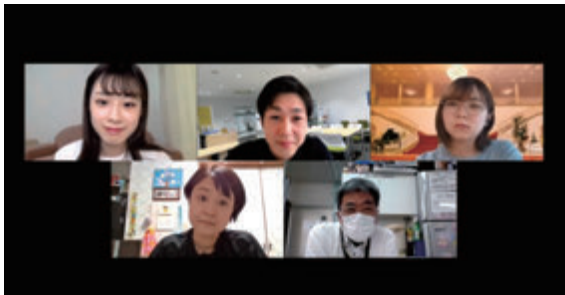
事業名	AGU ヒューマンライブラリー
日時	2021 年 6 月 26 日 (土) 14:00 ~ 16:00
場所	オンライン (Zoom)
参加人数	23 名 (うち本学生参加者 13 名、学生司書 6 名、外部学生 4 名)
内 容	ヒューマンライブラリー (以後 HL) の手法を用いた対話型イベントを実施。ゲスト (本役) として高次脳機能障害・ロリータファッション・元難民 (ロヒンギヤ)・パンセクシュアル・アイヌのパーソナリティを持つ方々に参加いただき、学生とオンライン上での対話を行った。イベント運営には HL 入門講座に参加した学生が HL 司書として、それぞれの役割・担当のもとゲストとの打ち合わせや広報、当日の司会・進行を担った。
成 果	実施後のアンケートから、ゲスト (本役) の自己開示を交えた対話を通して多様性理解や偏見の低減に則した変化が読み取れた。また、運営を担った 6 名の学生は、担当したゲストとの打ち合わせや交流を通して主体的に企画へ関わり、学びを深める経験となった。 参加者アンケート<一部抜粋> ・一人ひとりが自分として生きる強さを感じさせられ、私はどうかと考えさせられた。 ・マイノリティとされる人への特別視が時に偏見や差別を生み得るのかもしれないと感じました。尊重をしたうえでの方や個性を認め合える社会が必要だと改めて感じました。 ・相互にコミュニケーションをとっての多様性・多文化 理解への取り組みは講義や資料などの一方通行になりがちなものよりも学びも多く、新たな発見が得られました。 <実施レポート> https://volunteer-aoyamagakuin.jp/seminar_report/0626/
協力者	高次脳機能障害：小林春彦氏、ロリータファッション：璃月愛氏 元難民：長谷川瑠理華氏、パンセクシュアル：後藤花音氏、アイヌ：織田瑞希氏



【学生司書が作成したポスターとブックリスト】



【「本」「読者」「司書」で読書のポーズ】

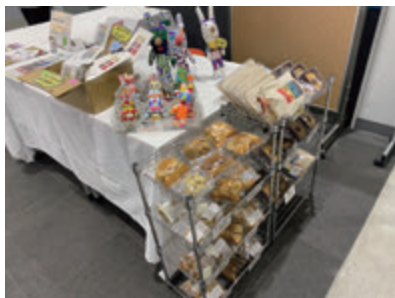
事業名	こどもテーブル講演会 & 学生ボランティア報告会
日時	2021年8月6日（金）13：30～16：00
開催方法	オンライン（Zoom）
参加人数	35名（うち学生20名、こどもテーブル団体14名、その他1名）
内容	渋谷区のこどもテーブル関係者と青学生の交流と学びを目的としたオンライン講演会 & 報告会を開催。 第一部では「認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ」理事長の湯浅誠氏を講師として招き、こども食堂の役割や全国の状況、課題、大学生が活動に参画する意義について講義いただいた。 第二部ではボランティアに参加している学生から、学生視点での活動を通じた気づき等の報告をした。その後は参加者間の交流として、こどもテーブル関係者や学生がそれぞれ意見を交わした。
成果	参加したこどもテーブル団体の方々からは「湯浅さんの講演会での学びがタイムリーに自身の団体の活動へのヒントとなった」「他団体の活動を参考にしたいと思いつつ、目の前の活動で精いっぱいであったが、今回のイベントで自分たちの立ち位置を確認することができた」「学生が頑張ってくれている姿に明るい未来を感じた」等、それぞれの活動に対するリフレクションや団体同士の情報を知る機会になったと意見をいただいた。参加学生からは「一度の機会に複数の団体の話が聞けた」「他の学生のボランティアに対する想いが知れた」等、イベントで様々な気づきが得られたという声が寄せられた。本企画を通して今後も大学と地域との幅広い協働の場づくりを展開していきたい。
協力団体	渋谷区社会福祉協議会、認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
 【第二部 ボランティア学生の報告】  【サービス・ラーニング科目学生による報告】  【参加者間の交流】  【集合写真】	

事業名	障がい WEEK
日時	2021 年 12 月 2 日 (木) ～ 9 日 (木)
場所	17 号館 17403 教室、青山キャンパス 1 号館ラウンジ
参加人数	ユニバーサルマナー検定…41 名 (学生 33 名、教職員 8 名) 手話カフェ…第一回 4 名、第二回 3 名、第三回 8 名 「daijobu」パネル展示…8 名 (クイズ参加者) 企画展 (学生ボランティア) …① 3 名 広報及びグッズのデザイン ② 7 名 会場での案内、サポート
内 容	国が定める障害者週間に合わせて、学内の障がい理解啓発を目的とした各種イベントを実施した。 【ユニバーサルマナー検定 3 級】 障がいのある講師による「障害」の理解や配慮の方法などの講演と参加者同士のディスカッションから学ぶ講座一体型の検定。 【「daijobu」パネル・ポスター設置】 様々な障がいの特性や声掛け・配慮の方法について学ぶ「daijobu」パネルとポスター展示を行った。パネルに対応したクイズも設置した。 【手話カフェ】 本学手話部有志を講師として、簡単な手話表現のクイズや手話うたを通じて参加者が手話に触れて交流した。全 3 回実施。 【企画展】 金沢アウトサイダーアートプロジェクトとシブヤフォントが発信している障がいを持つアーティストの作品展示、オリジナルグッズ、関連商品の販売を行った。 【広報】 動画制作を得意とする学生や、学生団体 A.C.T. メンバー協力のもとプロモーション動画やポスターを作成。企画展にて常時上映した。 https://volunteer-aoyamagakuin.jp/disability_week/ 【その他連携企画】 Roote 福祉プログラム「ボランティア入門講座@オンライン」「暮らしについて考える会 @ 青山キャンパス」を開催。 障がい学生支援センター「Start Line」DVD 上映会と学生サポーター公募の広報協力を行った。
成 果	【企画展】 来場者全体の中で約 30 名の方々に展示物やグッズも SNS で紹介してもらうことができたが、より多くの学生の関心につながり、障がい理解へ多様な入口があることを示していくことが求められる。物販利益の一部は、協力いただいた福祉関係機関に寄付を行った。
協力団体	【ユニバーサルマナー検定 3 級】 一般社団法人ユニバーサルマナー協会 【「daijobu」パネル・ポスター設置】 渋谷パラ草の会、MERRYPROJECT 【手話カフェ】 青山学院大学手話部有志 【企画展】 金沢アート工房、シブヤフォント、フクフクプラス、学生団体 A.C.T.





【学生が作成した広報物】



【企画展の様子】

講座・セミナー

事業名	災害救援ボランティア講座
日時	2021 年 5 月 15 日（土）、22 日（土）、23 日（日）9:00～17:00
実施場所	15 日：オンライン、22 日：青山キャンパス 17311 教室、23 日：青山キャンパス 14509 教室
参加者数	20 名（セーフティリーダー認定証付与 16 名、上級救命技能認定証付与 17 名）
内 容	災害時のボランティアリーダーを育成する目的で毎年実施。今年度は上級救命技能講習もカリキュラムに含めた 3 日間のコースで実施した。1 日目の座学においては渋谷区危機管理対策部や社会福祉協議会、渋谷消防署、渋谷警察署に協力を仰ぎ、各組織の平時の取り組みと災害時の役割について講話いただいた。また、一個人という立場ではあったがオブザーバーとして参加していた株式会社 LINE 社員の方（公共政策室）には災害時の LINE 活用術について実例を紹介いただいた。 【1 日目】 - 災害救援ボランティアの基本（澤野次郎氏 / 災害救援ボランティア推進委員会） - 災害ボランティアセンターについて（渋谷区役所、渋谷区社会福祉協議会） - 大学の初期対応（青山学院大学） - 火災発生時の対応（渋谷消防署） - 警察の災害対応と防災対策（警視庁災害対策課） - 情報収集・伝達と SNS の活用 【2 日目】 - 上級救命技能講習 【3 日目】 - 帰宅困難者支援施設運営ゲーム（KUG） - 災害ボランティアの安全衛生と被災された方との接し方 - 災害ボランティアケースワーク - 災害ボランティア活動総合演習
成 果	一昨年度の実施時には受講者 7 名であったが、今年度は定員 20 名の申し込みがあった。申込時の動機や事後アンケート結果から上級救命講習を受講したいというニーズが最も高く、次に大学の初期対応について興味が高かった。一方、自由記述欄では実際に身体を使う講義（救命講習）や頭脳を使う（シミュレーション）セッションへの意見が多くみられ、座学で得た知識を実践することの困難さや重要性を体験的に学べたことが伺える。 次年度はさらに学院全体の防災対策と連動した講座となるよう工夫を凝らし、受講生たちも初日からチームビルディングを高められるようカリキュラムを改善していく。
協力団体	災害救援ボランティア推進委員会
	

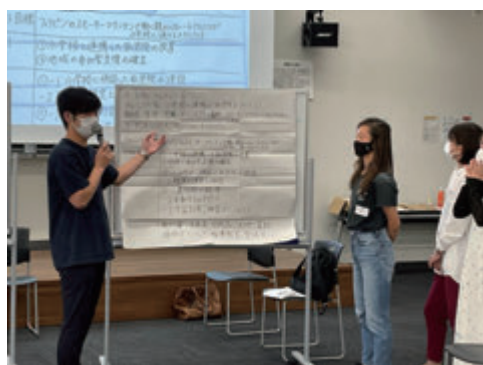
事業名	認知症サポーター養成講座
日時	前期：2021年5月31日（月）18：30～20：00 後期：2021年10月20日（水）18：30～20：00
場所	オンライン（Zoom）
参加人数	前期：24名（うち教職員3名） 後期：25名
内容	認知症を正しく理解し、認知症の方やその家族を応援できる認知症サポーターとしての知識を身につけるための講座として毎年実施。前半に認知症の基礎知識を学び、後半では複数の事例についてディスカッションを行った。後期の回では認知症サポーターとして活動をしている学生からの報告を行なった。
成果	動機が明確な申込者が多く、実施後のアンケートからは受講者にとって満足度の高い講座であったことが伺えた。 以下、参加者からのアンケート（抜粋） ・ 認知症は病気ではないという事を教えてもらったことが、一番認知症への認識の仕方が変わったような気がします。 ・ 認知症という言葉に惑わされずに一人一人の個性や感情を尊重していきたい。 ・ 「認知症の状態にある方は、その人なりの世界観を持っている。」という考え方がとても印象的でした。また、認知症の方の実際の声を聞いたことが貴重な体験でした。 ・ 相手のペースに合わせて考えて行動するのが良いということが一番学びました。認知症の方々と接する機会があったらこのようなことを意識したいと思いました。
協力者	前期：全国認知症ケア実践者ネットワーク Link 東京 木村 誠 氏 後期：キャラバンメイト 浅野佐久子氏（株式会社ファイブスター）
共催団体	全国キャラバンメイト連絡協議会



事業名	手話コミュニケーション講座
日時	2021 年 10 月 14 日 (木) 13:20 ~ 14:50、10 月 21 日 (木) 13:20 ~ 14:50
場所	青山キャンパス 1 号館 137 教室
参加者数	10 月 14 日 (木) : 15 名、10 月 21 日 (木) : 13 名
内 容	手話の世界に触れ、その世界で生きる人たち（ろう者、手話者）の「つよみ」を知ることを目的に開催。聴覚障害のある子どもが通う学習支援塾「あ〜とん塾」スタッフの瀧尾氏を講師に、そして学習塾に通う児童やボランティアをゲストとしてお招きし、ろう者のアイデンティティやデフゲイン、手話の魅力について講義いただいた。
成 果	講座の時間すべてが音声言語を一切使わない手話や筆談、スライドを通したコミュニケーション方法による進行で、はじめは戸惑った様子の学生も多かったが、徐々にその環境に慣れ、講師やゲストと覚えてたての手話や身振り手振りで交流を楽しもうとする姿勢が見受けられた。手話を覚えることを第一目的とせず、コミュニケーションを取ろうとするそのマインドを得るという目的に則した企画となった。
学生の声	・「マインドが大事！」授業全体を通して音のない世界だったことが新鮮でした。 ・ろう者が生まれた時に嬉しいと思う人もいるということが印象に残った。自分の価値観だけではろう者や手話の世界のことをまだまだ分かっていないことも多いなと改めて感じた。 ・この講座を受けるまでは興味はあるけど全くの手話初心者で大丈夫なのかなと不安に思うところがありました。でも、参加してよかったと心から思います。手話の面白さを知ることができたし、この先ろう者の方と出会ってもろう者だからと特別気を遣うことなく伝えるという気持ちでお話ができると思います。
協力者	一般社団法人ありがとうの種 あ〜とん塾



事業名	国際協力プランナー入門
日時	2021年9月15日(水)、16日(木) 10:00～17:00
実施場所	青山キャンパス 17310 教室、17311 教室
参加者数	20名(申込23名)
内 容	2019年度から実施している国際協力プロジェクトを企画するための座学と実践的ワークショップを組み合わせた2日間の研修を今年度は対面形式で開催した。なお対面式での参加に不安を感じたり、体調がすぐれない学生3名は今回の参加を見送った。当日は、緊急事態宣言下での実施だったため、感染症対策のため大教室(300名収容)をメイン会場とし、グループワーク時には2教室に分かれてワークを行った。 内容はSDGsの導入講義に始まり、国際協力を担う関係者(アクター)やロジカルシンキングを用いたプロジェクトマネジメントの枠組みを学びながら、架空のケースに沿ってチームごとに1.関係者分析、2.問題分析、3.目的分析、を行い、最後にアクションプランを完成させるというもの。ゲスト講師としてエシカルブランドの創設者、JICAの教育プロジェクトを実施する開発コンサルタント、日本で在日外国人向け保育園を開設した在住ネパール人の方を招いてそれぞれ講話いただいた。 予定したカリキュラムを修了した学生には修了証を授与した。
成 果	過去2回の実施経験から受講志望に参加基準としたためか、非常にモチベーションの高い学生たち20名が受講した。学部分布としては地球社会共生学部の学生がもっとも多かったが、大学院生(留学生含む)も5名ほど含まれ、全体的にバランスの良い研修となった。 カリキュラム面の工夫として昨年までは割愛していた関係者分析を含めたためか、アクションプランを作成するときの登場人物がかなり整理され、質の高いプロジェクトが完成した。
協力団体	特定非営利活動法人 GLM インスティテュート



事業名	渋谷区こどもの居場所セミナー
日時	2021 年 10 月 25 日 (月) 18 : 30 ~ 20 : 00
場所	オンライン (Zoom)
参加人数	11 名 (申込 19 名)
内 容	渋谷区で引きこもりや不登校支援に取り組む NPO 法人ピアサポートネットしゅやから、渋谷区における居場所づくりの取り組みやコロナ禍でのこどもたちの現状について講義していただいた。また、同法人が支援を始める渋谷区立広尾中学校でのアフタースクール事業のボランティアについて紹介された。
成 果	中高生のコロナ禍の現状は、登校自粛や学内イベントの中止など、学びの機会や体験の損失が大きな課題として挙げられるが、大学生も同様に抱える問題として、同じ立場の相互的支え合い「ピアサポート」の視点から大学生にできる関わり方を学んだ。セミナーに参加した学生数名が広尾中学校でのアフタースクールボランティアへ継続的に参加している。
協力団体	NPO 法人ピアサポートネットしゅや

事業名	防災ボランティア講習
日時	2021 年 12 月 10 日 (金) 18 : 30 ~ 20 : 00
場所	相模原キャンパス F305 教室
参加人数	7 名 (申込 9 名)
内 容	防災運営教材「HUG」を用いたワークショップ。避難所で次々と起こる出来事を疑似体験しながら、避難所の運営と役割について学んだ。
成 果	昨年度はコロナ禍のために実施を見送ったが、今年度は感染症対策を講じて実施することができた。教材は小学校を想定した避難所運営であったが、施設を大学と置き換えることができる内容であったので、本学での災害時の対応を考える上でも役立つ講習であったと思う。参加した学生は短い制限時間の中で多くの選択を取る等、真剣に取り組んでいた。こうした企画を継続的に実施することで、災害時に活躍できる人材の発掘および育成をはかり、学内外の災害対応に協力できる体制を築いていければと思う。
学生の声	・ 避難所の運営は想像よりとても難しいことがわかりました。このままでは私自身、災害時になんの役にも立ちませんので、本日の内容はよく復習したいと思います。 ・ 今回は災害も起きてないのでみんなでワイワイ言いながら配置場所を考えたりしましたが、実際に災害が起きたら焦ったり落ち着かない状況でやるのだろうなと考えました。実際に起きた時に自分はどのように行動するのか考えていきたいです。 ・ もう一回、HUG に挑戦したいです。
協力者	神奈川県立高浜高等学校 岡山 倫也 先生



各種サポート制度

青山学院大学ボランティアセンターでは、青学生や教職員向けのボランティア活動を支援する様々な制度を設けている。

■「災害・復興支援活動に対するサポート制度」

地震や台風、豪雨など大規模自然災害にかかる災害および復興支援ボランティア活動に参加する学生に対して、経済的負担を軽減することを目的に、活動地までの旅費・宿泊費等を補助。

2021 年度は大学の課外活動方針に基づき、宿泊を伴う活動は自粛としたため募集せず。

■「教職員ボランティア活動補助プログラム」

教職員の自発的な社会活動への参加を促進するため、社会活動に参加した教職員に対し、交通費・宿泊費等の一部を補助。

2021 年度は新型コロナウイルス感染リスクを考慮し、募集せず。

■「ボランティア・プロジェクト・サポート制度（通称ボラサポ）」

新しいことへの挑戦やこれまでの活動を発展させたいという、青学生や教職員が主体となって実施するボランティア・プロジェクトを応援するための助成金制度。

2021 年度はコーディネーター伴走型で新規のプロジェクトを立ち上げる「スタートアップコース」と、これまでの活動を発展させることを目的に取り組む「ステップアップコース」の2つのコースから企画を募集した。

2021 年度採択プロジェクト

スタートアップコース 4 件（申請件数 9 件）

プロジェクト名	助成金額
「渋谷区×女性議員×青学～キャリアの選択肢を広げよう～」	¥19,821
子供の居場所作りプロジェクト	¥27,482
Free&Smile ～生理期間をもっと自由にもっと笑顔で～	¥19,709
Tetote ～みんなで「生理」と向き合おう～	¥113,082

ステップアップコース 1 件（申請件数 2 件）

プロジェクト名	助成金額
しぶっこ主催こどもテーブル「しぶテ」	¥53,305

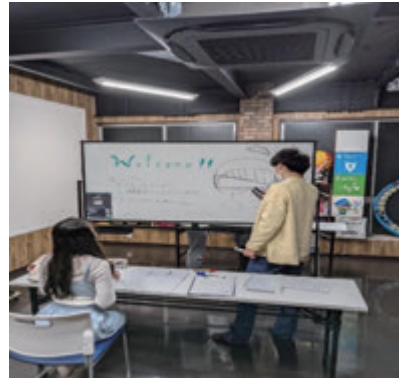
【スタートアップコース】

プロジェクト名	渋谷区×女性議員×青学～キャリアの選択肢を広げよう～
実施期間	2021 年 9 月 29 日（水）16：00～17：30（企画開催日時）
実施場所	オンライン（Zoom）
活動概要	女性のキャリアをテーマとして、青山学院大学卒業生で北区議員のうすい愛子氏と、渋谷男女平等・ダイバーシティセンター＜アイリス＞の方をパネリストとして迎え、ディスカッションと参加者同士のグループディスカッションを行った。 また、本イベントは Aoyama Gakuin Global Week の関連イベントとして公式サイトにも掲載された。

成果と課題	【成果】 ■ イベント企画・運営の経験 今回のプロジェクトでイベント企画から運営まで一通り経験することができた。今後の活動におけるビジョンの効果的な伝え方や、ミッション実現のために役立つスキルを得ることができた。 ■ 青学生のニーズと情報発信の必要性への気づき 今回のイベントとアンケート結果を通して、改めて学生の知りたいことや不安が見えてきたため、これを踏まえてSNS等で情報発信をしていきたい。今後の未来を担う一員としてさらに解決へのアクションを深く考えることに繋げることができた。 【課題】 当日の参加人数が申し込み時の半分に満たなかったことや、グループディスカッションで退出者が続出したことはオンラインイベントの難しさでもあり、悔しさが残った。多くの学生に参加してもらい、影響を与えたかった。	
---------------------	---	---



プロジェクト名	子供の居場所作りプロジェクト
実施期間	2021 年 11 月 3 日 (水)
実施場所	コワーキングスペース YABE LABO
活動概要	小学生と中学生を対象にした無料塾を実施。 企画当初は夏休みの宿題の支援や工作の企画を検討していたが緊急事態宣言のため延期とし、一部内容を変更して 11 月に実施した。相模原市内の小学生 4 名と中学生 1 名が参加した。 小学生には学校の宿題とプロジェクトメンバーが作成したテキストを使った勉強と、シーグラスを使ったフォトフレーム作りや絵しりとり等、「学習」と「遊び」の双方を組み合わせた内容を提供し、中学生には学校の試験前ということで試験対策を行った。 参加した生徒たちとは適宜趣味や生活に関する雑談を挟み、コミュニケーションを意識して学習指導に取り組んだ。
成果と課題	【成果】 ■ 参加した生徒たちとの交流と学びの機会の提供 想定していた人数を下回る参加者数ではあったが、その分だけ来てくれた生徒たちに手厚く交流と学びの時間を取ることができた。生徒たちに勉強自体を楽しいと思ってもらえたことが一番の成果である。 ■ プロジェクト実施における入念な準備とチームワーク作り 実施にあたって相模原市中央社会福祉協議会や地域の小学校、PTA 会長やその関係者の方々に協力いただけたことで実施することができた。準備段階ではメンバー間で担当と役割を決め、協力してプロジェクトを作っていくことができた。 【課題】 期待していた数の参加者が集まらなかった点は、広報の準備が足りなかった。今後も勉強を楽しくしてもらうための内容作りと居場所としての役割を担えるよう、計画性を持って定期開催していくことを検討したい。



プロジェクト名	Free&Smile ～生理期間をもっと自由にもっと笑顔で～
実施期間	2021 年 12 月 6 日（月）～ 2022 年 1 月 19 日（水）
実施場所	相模原キャンパス食堂、E 棟、F 棟の女子トイレ
活動概要	相模原キャンパス内女子トイレに生理用品を設置し、SNS で学生に向けた生理の理解に関する内容の投稿を配信し、青学生が少しでも快適な生理生活を過ごせるための活動を実施した。生理用品の設置と同時にアンケートも掲示し、学生の反応を回収した。
成果と課題	【成果】 ■ 多くの反響と設置の需要 アンケートや SNS へのメッセージには 300 件以上の回答があり、その多くから好意的なリアクションを得られたことから、相模原キャンパスにおける生理用品の設置に対する需要があることが分かった。 【課題】 男性にも生理について考えてもらうきっかけとしたかったが、アンケートには男性の回答が少なかったため、今後は性別問わず生理に向き合えるような活動を行っていきたい。



プロジェクト名	Tetote ～みんなで「生理」と向き合おう～
実施期間	2021 年 12 月 13 日（月）～ 2022 年 1 月 31 日（月）
実施場所	青山キャンパス 17 号館 1 階男子・女子・多目的トイレ
活動概要	青山キャンパス 17 号館 1 階の男子・女子・多目的トイレに生理用品の無料設置ならびに生理に関する内容のポスターを掲示した。 1 月 12 日には「生理のあるなしに関わらず生理を知ること」を目的として、青山キャンパス保健管理センターと共催で「Tetote × 保健管理センター～みんなで『生理』と向き合おう～オンラインイベント」を開催し、保健師の方から生理の仕組みに関する基礎知識や治療法についての講義を受け、参加者が生理について考える機会とした。
成果と課題	【成果】 ■ 学内トイレにおける生理用品設置の必要性の再認識 「実施期間中に突然生理になり、とても助かった。学内に設置してあると安心」など利用者の多くから好評の声が届き、「学内のトイレに生理用品を設置した方が良いと思うか」というアンケートの設問には約 170 件の賛同が得られた。 ■ 男子トイレ、多目的トイレへの設置 多様な性のあり方を考慮し、設置を女子トイレに限定せず設置した。それにより「性自認が男性でも生理のある人がいることに気がついた」など生理のない人に対して理解のきっかけになった。 【課題】 学生が生理用品の補充を継続する限界 期間中はメンバーがシフトを組み、授業の合間を縫って梱包と補充作業を実施したが、想定以上の消費量から作業が間に合わないことがあった。自動販売機の設置やショッピングモールなどで採用されている無料のディスペンサーの導入など、生理用品が常設できる方法を学内に提案していきたい。
 	

【ステップアップコース】

プロジェクト名	しぶっこ主催のこどもテーブル「しぶテ」
実施期間	2021年8月6日（日）、8月15日（日）
実施場所	オンライン（Zoom）
活動概要	「学生×渋谷区×こどもテーブル」の新たなコミュニティ形成とつながりの活性化を目的として、学生団体しぶっこが主催となりこどもテーブル活動をオンラインで実施した。 8月6日は「早稲田大学ボランティア団体 VIVASEDA」と共催し、廃油キャンドルをつかった灯籠づくりや環境問題に関するクイズを盛り込んだ。 8月15日は「恵比寿豆園（株）」との共催で小学生を対象にしたねりきり作りを実施した。
成果と展望	【成果】 - こどもテーブルの魅力を実感してもらえた。 参加したこどもたちから「大学生との交流が楽しかった」「刺激を受けた」等の声をもらい、こどもテーブルを知ってもらい、地域や人をつなぐ場であることを実感してもらえた。 - 団体同士の横のつながりと多世代交流の場づくり 本イベントにはしぶっこが活動で関わっているこどもテーブル団体の方々にも参加してもらうことで、多世代交流と団体同士の横のつながりが活性化する場とした。 【展望】 - 社会情勢や企画の内容に応じた開催方法の検討 今回はオンラインによる開催としたが、灯籠作りやねりきり作りなど個々で作業する時間も多く、狙いとしていた参加者同士の交流が十分にできない場面もあった。今後は社会情勢やテーマに応じた様々なかたちでの開催方法を検討していきたい。



「コミュニティサービス」科目の運営補助

社会情報学部の特設科目である「コミュニティサービス」科目（後期開講）に対して、ボランティアセンターとして運営補助を行った。各回の講義テーマに合わせ、センター長、副センター長ならびに各コーディネーターが担当し、ボランティアや市民協働を切り口に社会理解を深めるための講義を実施した。

授業科目名：コミュニティサービス

開講時期：後期金曜 3 限 全 15 回

担当教員：飯島 泰裕 教授、大宮 謙 教授

開講キャンパス：相模原キャンパス 受講者：141 名（地球社会共生学科の受講生を含む）

回	日程	講義テーマ
1	9/17	ガイダンス
2	9/24	ボランティア活動と市民協働の理解
3	10/1	大学生の市民参画：青山での実践から ※台風の影響により休講。15 回目に振替実施。
4	10/8	大学生の市民参画：相模原での実践から
5	10/15	グローバルな課題と活動 ゲスト：NPO 法人国際協力 NGO センター (JANIC) 松尾沢子氏
6	10/22	グローバルな課題へのアプローチ
7	11/5	地域社会の課題と活動（青山） ゲスト：渋谷区社会福祉協議会 瀬古氏、畔上氏、遠藤氏
8	11/12	地域社会の課題へのアプローチ①
9	11/19	地域社会の課題と活動（相模原） ゲスト：NPO 法人チーム浅沼屋 for Children and ALS 浅沼一也氏、相模原市社会福祉協議会 井上真吾氏
10	11/26	地域社会の課題へのアプローチ②
11	12/3	正規科目での学びと社会貢献
12	12/10	SDGs への理解とアクション
13	12/17	ソーシャルビジネス
14	1/7	リフレクション
15	1/14	総括

サービス・ラーニング科目への協力

青山スタンダードの科目として開講されている、サービス・ラーニング科目に対して、ボランティアセンターでは、主に科目の紹介・広報、地域での活動受け入れ先との連携・コーディネーションを行った。また今年度は、授業終了後も各団体での活動を継続する学生への支援として、After Service-Learning の取組を行った。

【2021 年度 サービス・ラーニング科目の実施概要】

サービス・ラーニングⅠ（青山キャンパス 前期）

「グローバル時代の社会課題」（外と内の両面から）をテーマにして、サービスの視座と姿勢を学ぶことを目的とし、国際協力団体と日本に住む外国に繋がる子どもたちを支援する団体、合計 7 団体と協働で実施した。各団体のニーズによって多様なサービス活動を実施し、海外の拠点とのオンラインでの活動や SNS 等を活用したアドボカシーにも取り組んだ。

サービス・ラーニングⅠ（青山キャンパス 前期）

サービス活動とは何かを学んだ上で、3つの NPO 団体のゲストスピーカーの講義と活動参加を通して、社会課題に取り組む現場への理解を深めた。フードバンク、地域の子ども支援、アジア・アフリカからの農業指導者研修の活動の中から活動に参加した。コロナ禍で、活動日程や内容の変更が重なりつつも、リモートでできる取り組みやインタビューを試みた。

サービス・ラーニングⅡ（青山キャンパス 前期）

社会の課題をビジネスの手法で解決することを目指すソーシャルビジネス（社会的企業）をテーマに、問題解決へのアプローチについて学んだ。実際に取り組んでいる3つの団体・企業からのゲストスピーカーの講義と、学外での活動を通して理解を深めた。

サービス・ラーニングとしてのボランティア活動（青山キャンパス 後期）

渋谷の街をフィールドに SDGs とは何かを学び、子ども、高齢者、障がい者の目線でのインクルーシブな地域コミュニティの持続について取り組んでいる団体から学び、都市の生活に密着したテーマを掘り下げ、身近なところでの問題解決のアクションにつなげる試みを行った。

サービス・ラーニングⅠ（相模原キャンパス 夏期集中）

「被災地に学ぶ」をテーマに、東日本大震災で被災した岩手県宮古市での活動を予定していたが、リモートでの活動に計画を変更して実施した。震災後に宮城県気仙沼市に移住し地域に根付いて活躍する人からオンラインでお話をうかがった。

サービス・ラーニングⅡ（相模原キャンパス 春期集中）

福島・双葉町、宮城・気仙沼、岩手・宮古での研修と活動を予定していたが、感染拡大状況が継続したため変更し、宮古市とのオンラインでの懇談会を実施し、研修と交流を行った。

After Service-Learning (サービス・ラーニング授業後の実践) に 参加した学生たちの気づきと学び

OSEC との出会いと危機感

法学部 法学科 3 年 小田佳祐

私は、青山学院高等部で参加した「青山学院フィリピン訪問プログラム」でチャイルド・ファンド・ジャパン (CFJ) を知った。サービス・ラーニング (SL) 受講の決め手も、CFJ が本授業に参加されるということが大半を占めている。本授業における CFJ との活動は、オリエンテーションの後、現地とのオンラインミーティングから始まった。フィリピン事務所の方から、子どもへのオンライン性搾取 (Online Sexual Exploitation of Children: OSEC) の問題とその深刻さを学んだ。過去にフィリピンに訪問していた私は、現地で会った子どもの顔が思い浮かび、この OSEC に関して強い危機感を覚え、OSEC に関するアドボカシー活動を SL の活動として実施した。活動を通して、日本にも同様の問題が潜んでいることに気づかされ、フィリピンとは別の危機感を覚えた。授業後も危機感に残り続け、後期も CFJ と共に、OSEC について活動することを決意した。CFJ では「OSEC をなくすプロジェクト」として、11 月 20 日に「オンライン活動報告会」、2 月 19 日に「OSEC を知っていますか？ 子どもたちにおよぶオンラインでの性搾取」(オンライン講演会) を実施した。青学でのシンポジウムも実施する予定である。CFJ のみならず他団体との協働もあり、学生のみではここまで本格的かつ広がりのある活動ができなかったと思う。

一連の活動を経て、座学と現場のリンクの重要性を改めて噛み締めた。私は、法学部で国際人権法を専攻しているが、そこで培った知識が OSEC に直結していることを改めて実感させられた。座学のみで知識を持っているだけでは、宝の持ち腐れである。今回の活動のように、現場でその知識を活かさないことには意味がないということを痛感した。かといって、現場のみに偏ってしまってもいけないだろう。現場で起きていることを的確に分析し解決するためには知識も必要である。卒業してからも、知識の吸収を怠らず、現場にも足を運ぶべきであることを学んだ。

今まで見えなかった景色

総合文化政策学部 総合文化政策学科 2 年 高橋咲也子

サービス・ラーニングでは、コロナ禍において子どもたちがどのような状況に置かれているかについて学び、海外セッションのなかで OSEC という問題に出会いました。私たちメンバーは衝撃を受け、OSEC という問題についてアドボカシー活動をしていくことを決めました。グループでの活動は前期まででしたが、OSEC という問題についてまだまだ日本で理解が広まっていないことに危機感を抱き、後期以降は、OSEC に関する調査を続ける一方、チャイルド・ファンド・ジャパン (CFJ) さんの総会でお話する機会を頂いたり、2 月にセミナーを開いたりしました。総会に出させていただいたことで、CFJ がフィリピンだけでなく様々な国で子どもたちを支援していることや、職員さんだけでなく沢山の支援者さんたちが考えを出し合って活動が形作られていることがわかりました。また、OSEC に関しても、CFJ の繋がりは深く、法律など自分には遠く思っていたものに対して関わりを持っていることが感じられました。セミナーに関しては、企画から開催まで携わったので、学業との両立が大変な時期もありましたが、OSEC という重大な問題の発信に自身が微力ながらも貢献できていることにとてもやりがいを感じました。

OSEC のテーマ自体が難しいこともあり、一歩間違えたら全てが崩れてしまうようなその危うさにいつも危機感を感じながら取り組みました。しかし、だからこそ企画が進行していくと共に嬉しさや達成感を感じ、より多くの人にこの問題を知ってもらいたい思いや使命感が大きくなりました。そして、活動を通して、現実を突きつけられた感じがします。こうして長い間活動に携わる中で、問題はもっと身近で深刻なのだというを日々実感させられています。

Happy の連鎖ではじまるわたしの物語 – くっくまの子どもたちに教わったこと –

国際政治経済学部 国際政治学科 3年 大岩麗奈

サービス・ラーニング（SL）の授業で、私は、くっくま孤児院の子どもたちと出会いました。GLOBE JUNGLE（GJ）と協力し、孤児院の小学生にオンラインで日本語を教えました。パソコンの画面越しに私たちの姿が見えた瞬間、にこにこ笑顔を見せながら「こんにちわ〜！」と元気に挨拶をしてくれ、終わりには、「どうもありがとうございました！」と、元気な挨拶で授業を締めくれます。活動の中で私が最も感動した瞬間は、子どもたちからの「にじいろ」の歌のサプライズプレゼントでした。私は国際協力に関心があり、大学入学後は、沢山の国々を訪れて子どもたちと触れ合い、支援に加われたらと考えていました。しかし、コロナ禍で思い描いていたような学生生活を送ることは出来ませんでした。「これからではじまるあなたの物語 ずっと長く道は続くよ。」大学生活の目標を失い、くすぶっていた日々の中で、子どもたちの口から発せられたその言葉は私の未熟さを露呈させるものでした。「眩しい笑顔の奥に悲しい音がする 寄り添って 今があって こんなにも愛おしい」と歌う子どもたちのたくましさ、コロナ禍の自分を不幸に感じていた自分自身が、情けなく感じました。眩しい笑顔の奥に、本当は存在するかもしれない悲しい音を感じさせず、今がある幸せを、私に教えてくれました。「私たちが日本語を教える」のではなく、「子どもたちと共に学ぼう」。SLの授業で学んだサーバントリーダーの教えから、チームの皆と決めた目標は、子どもたちと達成することができました。

後期も、子どもたちと日本語を学ぶことが出来ている今、現地スタッフの方のお話等を通して、子どもたちの笑顔は、悲しい音を隠すためのものではないと気が付きました。自分自身の選択で、くっくまで生きることを選び、そこで皆と寄り添う愛しい日々を幸せに生きる子どもたちの姿は、まさに GJ が作り出す HAPPY の連鎖です。私もその輪の中に入れてもらっている現在、今自分が出来ることを考え、自分の足で生きていけるよう、最後の大学生活の1年間を過ごそうと思います。

当事者として寄りそう

国際政治経済学部 国際政治学科 3年 大塚梨紗子

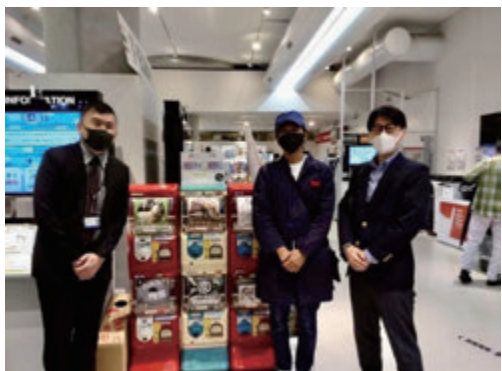
1年前コロナ禍で何か新しい挑戦をしたいと思っていたところ、サービス・ラーニングの授業を見つけました。もともと興味があった国際協力のボランティアに関われるチャンスがあると知り、私はすぐに受講を決めました。実習先として難民支援団体さぽうと21を選んだのは、大学の別の授業で日本の難民受け入れ数が少ない理由のひとつに社会の不寛容さや支援の不十分さがあると学び、自分自身何かできることをしたいと心のどこかで思っていたからです。活動では難民の子どもたちに1対1で学校科目のサポートをしています。実際に見えてきたのは、話す力と読み書きの力の間にある大きなギャップです。会話として日本語を上手に話せていても、読み書きになると多くの困難を抱えているにもかかわらず、学校などで特別な支援があるわけでもないという厳しい状況を目の当たりにしました。たった数回の実習の中で実感したこの課題に対して、私は自分が今彼らに手を差し伸べなければ、と使命感を抱くようになり、授業終了後も活動を継続させていただくことにしました。

様々な子どもたちに出会ってきましたが、支援の在り方には日々難しさを感じています。どうすれば学習意欲を上げられるか、そして学力向上につながられるか、ということだけでなく「難民」として複雑な背景を背負う子どもたちとの距離感について、どこまで踏み込んでいいのか、その線引きがわからなくなることもあります。ただ、決して正解があることでもなく、常に自分なりに子どもたちの視点に立って真剣に向き合っていくことを大切にしています。このように、私自身も悩みをかかえながら活動に取り組んでいますが、その原動力となっているのは驚くほどエネルギーで、時に目をきらきら輝かせて夢を語ってくれる子どもたちそのものです。彼らの持つパワーに圧倒されどンドン惹かれていきます。難民であるからといって夢を諦めることなく、自ら力強く道を切り開いていけますように。私はそう願ひ、これからも彼らの成長に寄り添っていきたいと思っています。

外部との連携・協力等

事業名	金沢アウトサイダー・アート・プロジェクトとの協働
内 容	優れた芸術的な才能を持つ、障害のある方への支援の一環として金沢市が取り組んでいる「アウトサイダー・アート・プロジェクト」との協働として、ボランティアセンターでは、アーティストの創作活動や自立のための仕組み作りへの寄付となるペーパーコースターを紹介しています。今年は学内購買会に加え、障がい WEEK 企画展（12/1～9）での原画展示と関連グッズの販売を行いました。
  	

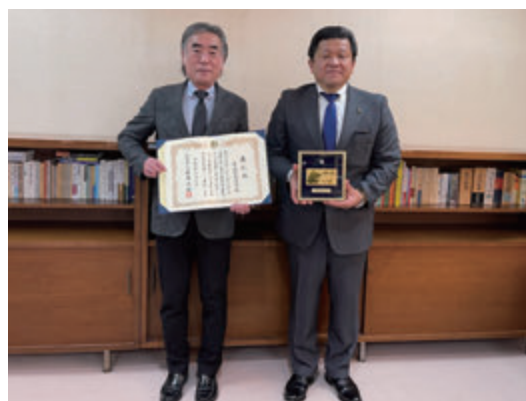
事業名	藤野プロジェクト（地産ガチャ販売）
日時	2021年5月19日（水）設置
実施場所	相模原キャンパス購買会
内容	“芸術のまち”“都心に一番近い里山”といった名称をもつ相模原市緑区藤野（旧津久井郡藤野町）について知り、青学生の地域に根差した社会貢献活動を広げていくことを目的としたプロジェクト。藤野の魅力を知る機会の提供として、地産ガチャ（藤野の特産品が詰められたカプセルトイ）を6台設置した。
成果	設置2日後には完売商品が確認された。学生だけでなく学内関係者の間でも話題となったようだった。年度内には250個を超える商品が売れ、カプセルトイの人気と藤野地域のユニークな特産品への関心の高さが伺えた。また、本ガチャに興味を持った学生がボランティアセンターへ来室される等、本事業をきっかけに藤野や社会貢献活動について伝える機会が生まれた。
協力団体	株式会社ザリガニワークス（武笠太郎氏）

事業名	学生×子どもの居場所づくりセミナー
日時	2022年3月21日（月・祝）17:00～19:00
実施場所	オンライン（Zoom）
参加者数	18名（うち青学生9名）
内容	子どもの居場所づくりの場において、学生のように子どもたちと年齢の近い担い手は、タテでもヨコでもない「ナナメの関係」をつくれる存在であり、また、子どもにとっての身近なロールモデルとなり得る貴重な存在と言われている。セミナーでは、子どもの居場所について基礎知識を学び、実際に子どもの居場所を運営している方との交流をすることで、子どもの居場所での活動へ踏み出すきっかけを作った。 【活動紹介をされた団体（ゲストスピーカー）】 ・あさみぞみんなのコミュニティ（中臺さん） ・おひさま（山角さん） ・くすのき広場（吉澤さん） ・みんなの居場所ポブケ（武田さん） ・みんなの場てとと（杉山さん、倉数さん） ・学び場ここから（小崎さん、中野さん）古淵4月オープン ・かけはし（藤田さん、不二山さん、筒井さん） ・中央っこ学習塾（山口さん）
成果	昨年度に引き続き、センターとして協力してオンラインで実施。参加者の半数が青学生であった。学生ポータル、公式HPでの広報効果が少なからずではあるが見られた。他大学からは桜美林大学、相模女子大学、日本女子大学、和光大学、武蔵大学等の学生が参加した。後半のディスカッションの時間では、学生が地域の団体・大学生と繋がることができた。今後の活動に期待したい。

参加者の声	・ ボランティアと身構え過ぎず、まずは遊びに行く感覚で参加してみる事が大切だというお言葉が印象に残りました。 ・ 学習支援では、教える能力が重視されるかと思いきや、話を聞いてあげたり家や学校以外の居場所にもなるなど目からウロコが溢れ出す良い刺激を受けることができた。 ・ 「ナナメの関係」のお話が印象的でした。 ・ 子供と真剣に向き合うことが求められていることだと知れてボランティアに参加しやすくなった。 ・ ボランティアや子どもと関わることに関心が高い学生と多く話すことができ、相模原市の力を感しました。
主催団体	相模原市社会福祉協議会中央ボランティアセンター

事業名	塩竈市市制施行 80 周年式典「特別表彰」受賞
日時	2021 年 11 月 23 日 (水)
内容	本学が 2012 年から取り組んできた宮城県塩竈市でのボランティア活動が市の復興に寄与したと功績が認められ、「塩竈市市制施行 80 周年式典」にて「特別表彰」を受賞した。 11 月 23 日に執り行われた受賞式では、塩竈市市長佐藤光樹氏から表彰状と記念品が贈られ、飯島センター長がこれらを拝受した。 また、1 月 12 日には、佐藤市長が本学を表敬訪問され、市との連携をより強固なものとするため、互いに協力し合うことを阪本浩学長と共に確認した。



【阪本浩学長（左）と佐藤光樹市長（右）】

事業名	2021 年度大学基準協会での評価
内 容	公益財団法人大学基準協会の「2021 年度大学評価結果」において、『センターがコーディネーターする形で、正課の「サービス・ラーニング」科目群において学生が NPO 等での活動に参加しながら学びを深めており、市民協働教育の実践等を活性化されていることも特筆に値する』と、活動に対する評価を受けた。

事業名	市民協働勉強会の開催
日 時	第一回 2022 年 2 月 24 日（木）16：00～17：30 第二回 2022 年 3 月 9 日（水）10：00～11：30
実施場所	オンライン（Zoom）
内 容	2022 年 4 月より本学ボランティアセンターからシビックエンゲージメントセンターへの改組を迎えるにあたり、「市民協働」をテーマとして外部講師を招いた内部研修を開催した。 【第一回】 講 師：椎野 修平 氏（日本 NPO センター・特別研究員） テーマ：市民協働とは何か？ 【第二回】 講 師：西芝 雅美 氏（ポートランド州立大学ハットフィールド大学院行政学部学部長 / パブリックサービス実践・研究センター副所長） テーマ：市民協働事業を担うセンターに多様な教職員を巻き込むには？
成 果	各回において「市民協働」という言葉の定義を改めて再考し、市民協働を推進する大学センターとしての役割を再認識するための示唆をいただいた。また、センター関係者間での「市民協働」に対する共通認識を得る機会となった。

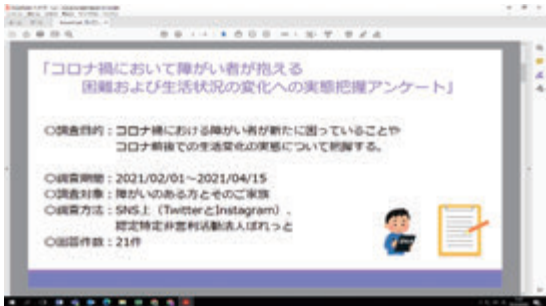
4. 学生の活動

学生スタッフ企画

今年度は3名が共同代表という形をとり学生スタッフ Roote の代表任務を分担して行った。昨年度に引き続き新型コロナウイルスによる影響が大きい一年であったが、オンラインツール等を活用して一部のプログラムが活動した。また、具体的な企画が実施できなかったプログラムも、ターゲット層の現状やニーズ把握に努めた。

事業名	作家中島京子さんに聞く！日本の入管問題（講演会）
プログラム	難民プログラム
日時	2021年12月13日（月）18:30～20:00
開催方法	Zoom
参加者数	60名（学生34名、院生2名、高等部生1名、教職員9名、教会関係者8名、ボランティアコーディネーター1名、詳細不明5名）
内容	入管での死亡事件や入管法改正法案廃棄等により、少しずつ入管に関する問題が世間にも知られるようになってきたと考えられる。だが、実際に入管訪問や入管に関わる方の話を聞く機会は少なく、具体的な問題意識を持つことが出来ない学生が多いと考えた。そこで、入管問題を小説として描いた作家の中島京子さんを講演にお招きし、お話頂くことで、難民・入管問題と私達日本人の生活と結びつきを理解し、自分事として意識する機会を創出した。 当初は入管訪問も企画していたが、度重なる緊急事態宣言により中止とした。「作家中島京子さんに聞く！日本の入管問題」は12月13日（月）の6限の時間にZoom上で実施した。合計60人（アーカイブ視聴を含む）もの方々に参加して頂いた。本講演会は、多くの人にとって、第三者の立場から見た日本の入管問題の実情を知ることができ、私たちに今後何ができるか、支援の形を考える機会となった。
スタッフ所感	昨年は初めてのオンライン企画で一般参加者の募集にも苦心したが、今年は広報にも力を入れ、当日も多くの人に入管問題を知ってもらうことができた。しかし、肝心の入管訪問が、度重なる緊急事態宣言により、実施不可になってしまったことが悔やまれる。 【カウンターパートへの感謝】 この混乱が多いコロナ禍においても、最後まで私たちの活動を支えて下さったカウンターパートの東京バプテスト教会の渡辺牧師には本当に御世話になりました。この場を借りて、難民プログラムスタッフ一同、感謝申し上げます。ありがとうございました。
協力団体	東京バプテスト教会

事業名	①障がいについて考えるオンライン・ディスカッション ② Route × NPO 法人ぱれっと 障がい者福祉を学ぼう Week
プログラム	福祉プログラム
日時	① 2021 年 4 月 28 日 (水) ② 講演会：2021 年 12 月 1 日 (水) 交流会：12 月 4 日 (土)
開催方法	Zoom
参加者数	① 12 名 (学生スタッフ 4 名、学生 7 名、障がい学生支援センター 1 名) ② 講演会：14 名 (学生スタッフ 4 名、学生 4 名、NPO 法人ぱれっと 5 名、 NPO 法人しょうがい生活支援の会すみか 1 名) 交流会：18 名 (学生スタッフ 4 名、学生 2 名、NPO 法人ぱれっと 12 名)
内容	青学生が障がいのある人々の特性や現状について深く知り、配慮の意識を持ちながら日常生活を過ごせるようになることを目標に活動した。 前期は、コロナ禍で障がい者が抱える困難や生活状況の変化について知るため、当事者の方々やご家族を対象としてアンケート調査を実施した。 そのアンケート回答結果を基に、青学生に向けて①「障がいについて考えるオンライン・ディスカッション」を実施。コロナ禍での困難事例や配慮の方法、ニーズに対する解決策を参加者同士でディスカッションする機会とした。 後期は、青学生を対象に障がいに関する意識調査を実施。それにより青学生の障がいへの理解の低さと理解向上の重要性が明らかになった。また、「障がいのある方と直接交流したい」という意見が寄せられたことを踏まえて、12 月に障がい当事者をお呼びし、②講演会・交流会を実施した。 これらの活動を通して、参加した学生が障がいへの理解を深め、障がいの有無に関わらず他者の立場や考えを尊重した行動をとる意識を持つことができた。
協力団体	NPO 法人ぱれっと、NPO 法人しょうがい生活支援の会すみか




【オンライン・ディスカッション】



【交流会の様子】

AOGAKU ボランティアネットワーク

AOGAKU ボランティアネットワークは、青山学院大学に所属する学生ボランティア団体同士の連携を高め、ボランティアセンターとの協働をより積極的に行うために設立した登録制の学内ネットワークです。青山キャンパス、相模原キャンパスで活動する学生ボランティア団体がネットワークを介して繋がることによって相互交流が可能となり、活動の幅が広がることを目的としています。2021 年度は Slack の活用、Zoom のプロアカウント貸出など、オンラインツールに関する支援を中心に学生の活動をサポートした。

2021 年度登録団体

- TsunAGU ボランティア愛好会
- 青山学院大学動物愛護団体きすあに
- しぶっこ
- MF3.11 東北応援愛好会
- fan × fun 学生ボランティア愛好会
- SIVA ボランティア愛好会
- Youth for Ofunato
- 青山子ども会
- 国際政治経済学部公認学生団体 SANDS
- グリーンバード青山学院大学ゴミ拾い愛好会
- アイセック青山学院大学委員会
- LINKLINK
- STUDY FOR TWO 青山学院大学支部

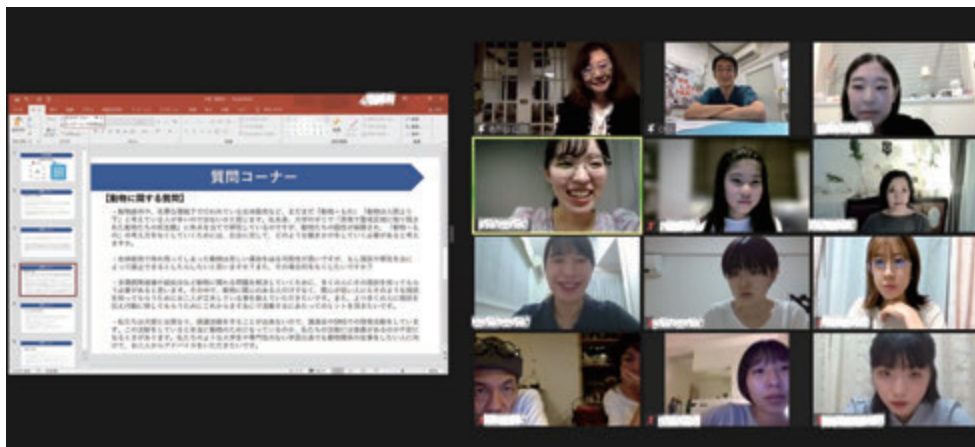
各学生団体紹介は HP にて掲載

<https://www.aoyama.ac.jp/life/volunteer/studentgroup.html>

AOGAKU ボランティアネットワーク登録団体活動報告

イベント名	青学生 SDGs 意識調査 2021
団体名	国際政治経済学部公認団体 SANDS
日時	2021 年 4 月 1 日（木）～ 30 日（金）
開催方法	オンライン
参加人数	回答者数 1034 名
概要	青山学院大学における SDGs 認知度調査を大規模調査した。結果に基づき、今後 SANDS が注力すべき事業やゴールを明確化することを目的とした。学部の在籍学生数 18,462 名、大学院の在籍学生数 1110 名、合計 19572 名を対象とした本アンケート調査では、調査期間 1 カ月間で合計 1034 のサンプル数となるデータを収集することができ、学部、大学院を合計した在籍学生数に占める回答者数の割合は約 5.5% となった。（学生数は本学ホームページ参照、閲覧日 2021/12/21）
感想	本アンケート調査は、全学のうち約 5% に当たる 1034 件の回答が集まったが、学内の状況を正確に表しているデータとはいえない。理由としては、学部ごとの生徒数と回答数が比例していないこと、また学部や学年に偏りがみられるためである。しかし、このような試みは今回初であり、青山学院大学内での SDGs 認知度やその他項目の概略を把握することができたと考える。来年度はより多くの母数を獲得することを目指したい。

イベント名	オンライン講演会と連続講座の開催 1) きすあに×犬部 ～映画「犬部」主人公・脚本家と語る“私たちと動物のこれから”～ 2) 「アニマルウェルフェア×食」連続講座
団体名	動物愛護団体きすあに
日時	1) 2021年8月12日(木) 18:30～20:30 2) 2022年3月12日(土) 18:00～20:00 2022年3月15日(火) 14:00～16:00
開催方法	オンライン (Zoom)
参加人数	240名程度
概要	8月には映画「犬部」主人公・脚本家と語る“私たちと動物のこれから”をテーマとするオンライン講演会を開催しました。ゲストとして、映画「犬部」のモデルとなった獣医師の太田快作先生、脚本家の山田あかね先生をお招きし、犬部での活動やお二人の活動(獣医師としての動物愛護活動・脚本家としての動物愛護活動)についてお話を頂きました。 また、3月にはアニマルウェルフェア×食をテーマとする連続講座も開催しました。ゲストとして、アニマルウェルフェア畜産協会事務局長の奥野尚志さん、ザ・ヒューメイン・リーグ・ジャパンスタッフの上原まほさんをお招きし、畜場での動物の扱いや鶏卵用の鶏の扱いについてお話を頂きました。
感想	きすあに×犬部の講演会では、現状に思い悩む学生や、動物のために日々活動している方々に対する、太田先生からのお言葉が印象的でした。また、山田先生のお話を聞いて、決して全ての人の関心を持ってもらおうとしなくてもよいのだと思いました。 お二人のお話を通して、きすあにとして活動する上で大切なことをお聞きすることができました。また、連続講座に参加してくれた方からは、貴重だったという意見が多く寄せられました。講演会に参加し、関心をもった方、自分自身にできることを考えるきっかけになったと述べていた方もいました。参加者の満足度も高く、非常に良い機会をもつことができたのではないかと思います。
連携団体	日本財団ボランティアセンター (Gakuvo)



イベント名	TsunAGU ボランティア愛好会×イチナナ食堂 期間限定企画コラボ
団体名	TsunAGU ボランティア愛好会
日時	2021 年 12 月 6 日 (月) ～ 12 月 10 日 (金)
開催方法	学内で Table for Two メニューを提供
場 所	イチナナ食堂
参加人数	22 名 (すべて青学生)
概 要	当団体メンバーとイチナナ食堂共同考案のビビンバ丼とアドボ丼を 500 円で提供、一食につき 20 円を寄付。 当イベントは、世界の食の不均衡解消を目的とする考え方「Table for Two」に基づく。参加団体は、生活習慣病等に悩む国でヘルシーメニューを提供。メニューの条件には、730kcal 以内・栄養バランスがある。そして、売り上げの一部を飢餓に悩む開発途上国に給食として届ける。当イベントで得た 5,740 円は Table For Two 事務局を通して支援先に届けられた。
感 想	一年ぶりの実現で、感動が大きかった。企画の難しさには、学食が時短営業の中売上を確保しなければいけない状況があった。学食側の「肉系メニューの方が売れる、売上を確保できるメニューにしてほしい」という要望と Table For Two メニューの条件やオリジナリティの両立の為にアンケートや複数回に渡る話し合いをした。 結果アドボ丼は完売に至らなかったが、現 1,2 年生がメニュー考案等を経験できたこともあり、今後更なる発展を目指したい。
	

イベント名	教科書回収活動
団体名	STUDY FOR TWO AOYAMA
日時	2021 年 11 月 8 日（月）～ 19 日（金）
開催場所	青山キャンパス 17 号館 1 階エレベーターホール前
概要	STUDY FOR TWO AOYAMA（以下 SFTA）は「開発後進国の教育格差の是正」を目的とし、教科書事業（大学生の使用済み教科書の回収・販売を通じて開発後進国への寄付金を集める事業）を主として行っている。 この度その目的達成に向けた第 1 歩として、2021 年 11 月、17 号館エレベーターホールにて使用済み教科書の回収活動を行った。使用済み教科書の回収に当たり、寄付者の方々へのインセンティブとして、事前に協賛いただけたことが決まっていた青山学院大学近隣の飲食店の割引クーポンを提供した。結果として、130 冊ほどの使用済み教科書を寄付していただくことができた。
	

5. 資料

5.1 ボランティアセンター利用状況

2021 年度ボランティア活動参加者集計

参加者とリピーター数

(単位：人)

延べ人数	552
参加人数	443
リピーター	52

参加カテゴリー

(単位：人)

セミナー・講座	334
ボランティア活動	83
シンポジウム	72
ボラサポ	63
総計	552

参加形態

(単位：人)

オンライン	347
対面	205
総計	552

参加者の属性（所属学部）と活動分野

(単位：人)

	活動分野	国際協力・交流	災害・復興支援	子ども支援	清掃	福祉	地域	その他	総計
学部生	属性	67	47	121	25	150	30	62	502
	文学部	6	10	28	9	37	3	16	109
	教育人間科学部	2	2	19	1	27	3	3	57
	経済学部	3	2	2	2	9	1	4	23
	法学部	19	13	17	2	23	2	2	78
	経営学部	1	4	5	1	5		4	20
	国際政治経済学部	16	4	9	3	9	6	11	58
	総合文化政策学部	5	4	8	3	5	2	2	29
	理工学部		2	5		4	4	6	21
	社会情報学部		1	2	1	5	2		11
	地球社会共生学部	8	1	12	2	3	1	9	36
	コミュニティ人間科学部	2	4	14	1	23	6	5	55
	不明	5							5
大学院生		8	1	2	0	5	3	1	21
	総合文化政策学研究科	1							1
	国際政治経済学研究科			2		1			4
	経営学研究科					1			1
	会計プロフェッション研究科					1			1
	国際マネジメント研究科	6				2	3	1	12
	理工学研究科		1						1
	不明	1							1
科目履修生		1				2			3
教員		7	1			2			10
職員		4				12			16
総計		87	49	123	25	172	33	63	552

青山キャンパス集計

ボランティア情報取り扱い数

1. 団体登録件数

2021 年度 登録	11 団体
---------------	-------

2. ボランティア等募集件数

月別ボランティア等募集件数

(単位: 件)

月	件数
4	42
5	30
6	35
7	44
8	40
9	38
10	38
11	35
12	32
1	36
2	46
3	27
合計	443

カテゴリー別ボランティア等募集件数

(単位: 件)

カテゴリー	件数
ボランティア募集	48
ニュースレター	345
講座・セミナー	18
シンポジウム	2
イベント	23
助成金情報	3
その他	4
合計	443

3. 月別来室者数

	青学生		教職員		他大学性		一般		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
4月	17	110	1	1	0	0	2	5	136
5月	2	11	1	0	0	0	0	0	14
6月	8	60	1	3	0	0	0	2	74
7月	8	30	1	1	0	0	4	5	49
8月	1	5	0	0	0	0	0	0	6
9月	1	4	0	0	0	0	0	0	5
10月	15	50	4	1	0	0	6	4	80
11月	10	31	2	1	0	0	0	0	44
12月	20	49	2	3	0	0	0	0	74
1月	6	13	0	0	0	0	0	1	20
2月	2	3	0	0	0	0	0	1	6
3月	1	5	0	2	0	0	2	1	11
計	91	371	12	12	0	0	14	19	519

4. 相談内容区分

	国内ボランティアについて	海外ボランティアについて	ボランティア保険について	組織運営・活動について	緊急支援	募金・寄付	フェアトレード	ソーシャルビジネス・BOP・CSR 等	その他	合計
4 月	18	0	1	1	0	0	0	0	5	25
5 月	2	0	0	1	0	0	0	0	0	3
6 月	2	0	0	0	0	0	0	0	1	3
7 月	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
8 月	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
9 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10 月	5	0	0	1	0	0	0	0	1	7
11 月	3	1	0	0	0	0	0	0	1	5
12 月	5	0	0	0	0	0	0	0	0	5
1 月	4	0	0	1	0	0	0	1	0	6
2 月	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
3 月	0	1	0	0	0	0	0	0	0	1
合 計	42	2	1	4	0	0	0	1	10	60

5. 主な相談内容

月	相談内容
4 月	しぶっこに興味がある。
	すぐに参加できるボランティア情報を知りたい
	SHANTI SHANTI 所属。食品ロスに関する活動に伴い食堂内に三角ポップ等で広報したい場合の手続きを知りたい。
	子ども関連のボランティアや東北・被災地でのボランティアがあるか知りたい。
	SHANTI SHANTI の活動として、大学生を求めている地域で、大学生ということを活かして実際に活動できるボランティアを探している。関東圏で継続支援が可能なところで地域を活性化できるような活動をしたいと考えている。
	難民や社会的マイノリティを支援するボランティア活動に興味がある。
	ちょっと興味があつてのぞいてみた。どんなボランティアがあるのか教えてほしい。
	動物保護や災害ボランティアに興味がある。今 3 年なので半年くらいの間に参加できる活動があれば知りたい。
	横浜市の学校ボランティアに申し込みたい。
	防災に興味がある。都市型防災や災害ボランティアなど。
	こどもテーブルボランティアの詳細、申し込み方法について。
	ボランティア保険はどこで加入手続きできるのか？
	スクールライフサポーターの登録について。
	藤野プロジェクトに関わりたい。まずは学生スタッフとして登録するように飯島先生に言われた。(アドグルメンバー)
	ボランティア団体の合同説明会に参加できなかったが録画などで見ることはできるのか？
	学生時代に様々なボランティア活動に参加してみたい。今は渋谷区こどもテーブルに興味がある。
	VC 内フリースペース利用予約。4/20(火)12:30 ~ 13:10 MF3.11 ミーティング 6 名程度予定。
	横浜教育実践ボランティアに申し込みたい。

	個人でボランティアに参加したい。登録する必要があるのか？
	どのようなボランティアがあるか知りたい。
	渋谷区ダイバーシティ担当者の連絡先を知りたい。
	茨城県警察本部の学生ボランティアに参加している。警察から大学に活動方針を確認するように言われた。青学として、個人のボランティア活動は許可されているのか？
	SANDS のメンバー。 SANDS の今年の活動として、①センター街にゴミ箱設置、②学内に服のリサイクルボックスの設置を予定している。区の協力を仰ぎたいので、窓口となってくれる担当者を教えてほしい。
	中・高の学校ボランティアに興味がある。(授業補助など放課後活動) できれば練馬区がよい。
	コロナ禍で実施可能なボランティア活動の相談 (TsunAGU ボランティア愛好会) コロナウィルスの影響を受け、活動の幅が大変限られてる。そのため企業や大学付近の店舗とコラボするなど現在でも実施可能な活動を見つめたく、相談。
5 月	新しくボランティア活動を始めたい。 中々機会に恵まれない子供たちに向けて、ボクシング部の活動の一環を通じて、スポーツをやる機会を作りたい。しかし、ボランティアを立ち上げた経験が無く、サポートを頂きたく相談に伺った。
	今、中学校 (母校) でボランティア活動をしているが、他にもいろいろ参加してみたい。
	現在、就活中だが、なにか出来るボランティアはないか？
6 月	夏休みに参加できるボランティアはないか？
	地元 (群馬県高崎市) でできるボランティア活動を探している。地方公務員志望。
	ヒューマンライブラリーに関する書籍を読みたい
7 月	自然体験プログラムのような活動に参加したい。(7/11 は都合がつかない)
	ボランティアセンターでは何をしているのか。どのようなボランティアがあるか。
8 月	学生生活課太田担当課長が来室され以下の内容ご相談、VC にて引継ぎ。 学生から学生生活課宛に TEL: 高校までイタリア・ミラノで過ごす。自分自身も人種差別を受けた経験等から、少しでも議論する場や考える場、活動する所を探している。 【緊急事態宣言期間につき VC 窓口閉室中のため学生へは TEL & メール対応】 人権・差別等に取り組む団体で活動したい。学生団体や外部団体の情報を知りたい。 ※日本語教室など学習支援は自信がない。
10 月	フードロスに関わりたい (前期、こどもテーブルに参加済)
	コロナ禍でメインの海外ボランティアができないため、国内でのボランティア活動を紹介してほしい。また、学生団体同士の横のつながりも欲しい。
	どんなボランティアがあるか知りたい。 (母子生活支援施設でのボランティア情報を見て) 活動に関心。その他、こどもに関わるボランティアを紹介してほしい。
	10/20 の認知症サポーター養成講座を受け、何かボランティア活動に参加したいと思った。
	教育系ボランティア。
	11 ~ 12 月に活動できる地域ボランティアを知りたい。
	SL の授業 (黒石先生) をとっている。自分でボランティア活動を探して、成果発表する必要があるので、渋谷でできるボランティアを教えてください。
11 月	児童養護施設での就職を希望している。 神奈川県 (小田原) 付近でのボランティアで青学に募集が来ているものがあったら教えていただきたい。
	サークル (Shanti Shanti) として参加できるボランティアを探している。10 ~ 20 名規模。
	子ども食堂をやっている。ボランティアとして青学生に手伝ってもらいたい。
	IVUSA (国際学生ボランティア団体) について教えてください。
	ボラサポについて。 親の仕事状況などにより、教育の機会が少ない小学生を対象としたボランティア。内容としては、大学生が小学生を引率する形で博物館や科学館に出かけるというもの。 来年度のボラサポへの応募を検討している。 現在 10 名程の青学生で活動中。

12 月	春休みに学校ボランティアに参加したい。 できれば埼玉の秩父市希望。
	児童養護施設での活動。
	バリアフリー、まちづくり関連ボランティアについて。
	貧困家庭の子どもに勉強を教えるボランティアをやってみたい。 現在も NPO でボランティアしているが、少し遠い場所なので大学が家の近くが良い。
	ジェンダーに関わるボランティアがしたい。 同じことに関心を持っている学生とつながりたいので、ジェンダーに関わる活動をしている団体に参加したい。
1 月	春休みに地元（藤沢）近くでボランティアしてみたい。初めてなのでどのように参加したらよいのかわからない。
	今後の活動の相談・連絡先について。（TsunAGU ボランティア愛好会） 大学の公認を外れることとなった。
	2 月頃、大学の近くで参加できるボランティアはないか？
	渋谷で参加できるボランティアを紹介してほしい。
2 月	学習支援ボランティアに興味があり。大学～自宅（埼玉県）あたりで活動してみたい。
	学生任意団体として愛の手帳の写真撮影用メイクを行っている。メンバーとオンラインミーティングするのでスペースを使いたい
3 月	海外に渡航して参加できるボランティアがあるか知りたい

相模原キャンパス集計

ボランティア情報取り扱い数

1. 団体登録件数

2021 年度 登録	2 団体
---------------	------

2. ボランティア等募集件数

月別ボランティア等募集件数

(単位: 件)

月	件数
4	10
5	5
6	12
7	4
8	10
9	2
10	9
11	8
12	8
1	3
2	4
3	9
合計	84

カテゴリー別ボランティア等募集件数

(単位: 件)

カテゴリー	件数
ボランティア募集	26
ニュースレター	27
講座・セミナー	6
イベント	21
助成金情報	3
その他	1
合計	84

3. 月別来室者数

	青学生		教職員		他大学性		一般		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
4月	7	11	2	1	0	0	0	0	21
5月	4	5	3	1	0	0	0	0	13
6月	10	41	3	1	0	0	0	1	56
7月	6	16	0	0	0	0	2	0	24
8月	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9月	1	1	0	0	0	0	0	0	2
10月	7	12	0	1	0	0	0	0	20
11月	9	12	1	0	0	0	3	1	26
12月	11	41	1	0	0	0	0	0	53
1月	1	14	0	0	0	0	0	0	15
2月	1	2	1	0	0	0	0	0	4
3月	1	0	0	0	0	0	2	0	3
計	58	155	11	4	0	0	7	2	237

4. 相談内容区分

	国内ボランティアについて	海外ボランティアについて	ボランティア保険について	組織運営・活動について	緊急支援	募金・寄付	フェアトレード	ソーシャルビジネス・BOP・CSR 等	その他	合計
4 月	7	0	0	4	0	0	0	0	2	13
5 月	1	0	0	0	0	0	0	0	3	4
6 月	9	0	0	3	0	0	0	0	4	16
7 月	3	3	0	0	0	0	0	0	0	6
8 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
9 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10 月	5	0	0	0	0	0	0	0	4	9
11 月	1	0	0	1	0	0	0	0	0	2
12 月	1	1	0	1	0	0	0	0	0	3
1 月	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
2 月	1	0	0	0	0	0	0	0	1	2
3 月	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計	30	4	0	9	0	0	0	0	14	57

5. 主な相談内容

月	相談内容
4 月	fan × fun で 5/9(日) に対面イベントを予定している。 コロナ禍での開催となるので、大学として大丈夫か確認をしたい。
	ボランティアサークルの作り方を教えて欲しい。
	ボランティアセンターの藤野 PJ に興味あり。
	ボランティアサークルに入りたい。どのような団体があるか教えて欲しい。
	ボラセンプロジェクト「おとなり」の活動日についての問い合わせ。 土日に出来るボランティアを教えて欲しい。
	介護ボランティアについて興味あり。ボランティアセンターで紹介してもらえるような案件はあるか。 ボランティアセンターのイベント情報はどのようにしたらタイムリーに知ることが出来るのか。
	コミュニティ人間科学部の授業への講師依頼を検討中。相模原市社会福祉協議会を紹介して欲しい (認知症サポーター養成講座受講生) 実際の活動が出来るボランティアを知りたい。学習支援や農業体験にも興味あり
	ボランティアを何かしたいと思っているが、ボランティア情報や情報の探し方を教えて欲しい
	ボランティアについて教えて欲しい (災害ボランティア興味あり)
	ボランティアについて教えて欲しい (短期のボランティア・ボラセンイベント・海外ボランティアに興味あり)
	食堂の他に学生が運営するキッチンカー等の食堂があっても良いのではないか? という考えで実現するためのプロセスを相談
	SIVA で動物愛護のボランティア活動を探している。
	fan × fun で 5/9(日) に対面イベントを予定している。 コロナ禍での開催となるので、大学として大丈夫か確認をしたい。
5 月	福島県にある J ビレッジの活用依頼
	高齢者のコロナワクチン接種のネット予約のお手伝いをしたい。 どこから始めたら良いだろうか。

	ボラサポについて フードロス・環境系に関心がある。どう形にしたら良いだろうか。
	ボラサポについて どう始めたら良いのか。
6月	ボランティア活動の相談 ・一緒に活動するメンバーを増やしたい ・活動の機会を増やしたい
	・国際ボランティア系(JICA等)の就活相談させて欲しい。 ・女性支援の為のアイデア、企画等相談させて欲しい。
	学生が今年度立ち上げた団体の顧問になった。 これから色々活動していくに当たってサポートをお願いしたい。
	団体立ち上げとサポート支援について
	青学新聞の「相模原キャンパス独自」の記事になるネタはないだろうか
	ボラサポについて教えて欲しい。
	(SIVA)国際交流活動について
	ボランティア活動を紹介して欲しい
	地域で出来る子どもが対象となるボランティア活動を紹介して欲しい
	藤野の「地産ガチャ」を相模原市観光親善大使のインスタ等で紹介させて欲しい
	夏休みに相模原市で出来るボランティアを紹介して欲しい
7月	カンボジアの日本語教育(ボラセンの日本語会話サロン)について教えて欲しい。
	夏休みに出来る子ども系のボランティアを教えて欲しい
	夏休みに出来るボランティアを教えて欲しい
	夏休みに出来る海外と国際交流ボランティアを教えて欲しい
10月	災害とボランティアをテーマに学外の方を招き、講演会を行いたい、個人での運営は難しい為、支援をして欲しい。
	ボラサポ再提出に関する相談
	国境なき医師団の活動に参加していた。その経験から、青学の中で国境なき医師団の広報活動をした い。その方法などのアドバイスが欲しい。
	ボランティアを探している。どんなボランティアがあるか教えて欲しい。
	ボラサポ再提出に関する相談
	何かボランティアをしたい。どんなボランティアがあるか教えて欲しい。
	裁判所の事務で働きたいと考えているので、裁判所関係の問題などが分かるボランティアがあったら 教えて欲しい。
	ボラセンのHPに載っている渋谷区子どもテーブルについて聞きたい。 相模原市にも子どもテーブルみたいなボランティアはないか？
11月	ボラサポ ポスター掲示に関する相談
	学内でペットボトルキャップを集めてフクチンに変える活動をしようと考えている。学内での活動 するための手続きの方法を知りたい。
12月	動物愛護の為の募金活動を学内や駅前でやりたいと考えている。学内の手続きや学外での手続きにつ いて教えて欲しい。
	外国の方に ZOOM で日本語を教えるようなボランティアについて教えて欲しい
	動物に関係するボランティアをしたいが、何かないか？
1月	現在実施中のボラサポの活動をボラサポ期間が終了しても続けていきたい。どの様にしたら続けるこ とができるのか。
	春休みに出来るボランティアを教えて欲しい。
2月	ボラサポの経費精算の仕方
	4月から大学院生になるので、何かボランティア活動をしてみたい。どう探したら良いか教えて欲しい

5.2 青山学院大学ボランティアセンター規則

(2016 年 11 月 24 日理事会承認)

改正 2018 年 1 月 25 日 2018 年 6 月 18 日

2019 年 3 月 28 日 2019 年 12 月 13 日

(趣旨)

第 1 条 この規則は、青山学院大学学則第 58 条の 3 第 2 項の規定に基づき、青山学院大学ボランティアセンター（以下「センター」という。）の運営について必要な事項を定めるものとする。

[青山学院大学学則第 58 条の 3 第 2 項]

(センターの目的)

第 2 条 センターは、本学におけるサービス・ラーニングとしてのボランティア活動の支援を通じて、学生、職員が社会貢献活動を体験することにより自らの学びがより豊かなものとなるよう、それらの者の自発的な社会活動への参加を促すとともに、社会の様々なコミュニティが抱える課題の解決に取り組み、社会貢献活動に積極的に関わることができるサーバント・リーダーを社会へ輩出することを目的とする。

(センターの事業)

第 3 条 センターは、前条の目的を達成するため、次の事業を行う。

- (1) センターの目的を達成するための調査及び企画立案
- (2) ボランティア活動企画に関する情報収集及び管理
- (3) ボランティア活動への参画機会の提供
- (4) ボランティア活動の実施促進
- (5) ボランティア活動に参画する学生、団体の能力強化
- (6) ボランティア活動に関する学内外の専門家及び関連団体との連携の促進
- (7) ボランティア活動の社会的及び教育的効果の評価と勧告
- (8) ボランティア活動をめぐる社会的価値の創出と発信
- (9) ボランティア活動及び市民社会の活性化のための調査研究
- (10) 前各号に規定するもののほか、センターの目的達成に必要な事業

(本部及び分室)

第 4 条 センターは、青山キャンパスに本部を置く。

2 センターは、前条に規定する事業のうち相模原キャンパスに係るものを行うため、同キャンパスに分室を置く。

(センターの組織)

第 5 条 センターにセンター長 1 名を置く。

2 センターに副センター長 1 名を置く。

3 センターにボランティアコーディネーター若干名を置く。

4 センターに助手若干名を置く。

5 センターの運営等に係る重要事項を審議するため、センターにボランティアセンター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

6 センターの運営等に必要事項を検討するため、運営委員会の下にボランティアセンター実務委員会（以下「実務委員会」という。）を置く。

(センター長)

第 6 条 センター長は、センターの業務を統括し、センターを代表する。

2 センター長は、学長が本学専任教員の中から候補者を推薦し、運営委員会及び学部長会の審議を経て、学長が委嘱する。

3 センター長の任期は、2 年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 センター長は、再任されることができる。

(副センター長)

第 7 条 副センター長は、センター長を補佐し、センター長に事故あるときは、その職務を代理する。

2 前項に規定するもののほか、センター長が、必要があると認める場合は、副センター長にその職務の一部を臨時に代理させることができる。

3 副センター長は、センター長が本学専任教員の中から候補者を推薦し、運営委員会及び学部長会の審議を経て、学長が委嘱する。

4 副センター長の任期は、2年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

5 副センター長は、再任されることができる。

(ボランティアコーディネーター)

第8条 ボランティアコーディネーターは、ボランティア活動に係る専門知識を有する学校法人青山学院（以下「本法人」という。）の専任の職員又は当該職員以外の者（以下「外部の専門家」という。）をもって充てる。

2 ボランティアコーディネーターの職務は、次のとおりとする。

- (1) ボランティア活動に係る情報収集及びその発信に係る支援
- (2) ボランティア活動の機会提供に係る支援
- (3) ボランティア活動の実施に当たっての外部組織の紹介及び当該外部機関との調整
- (4) ボランティア活動に係る学習機会の提供に係る支援
- (5) ボランティア活動における相談に対する対応
- (6) 学生スタッフへの指導及び助言
- (7) ボランティア活動に係るプログラム開発及びその支援
- (8) ボランティア活動における本学と外部機関との連携に係る支援
- (9) ボランティア活動に係る本学と外部機関とのネットワーク構築及びその支援
- (10) ボランティア活動に係る記録及び統計資料の作成及びその支援
- (11) 前各号に規定するもののほか、センター長がセンターの目的を達成するために必要があると認めた業務

3 ボランティアコーディネーターは、センター長が候補者を推薦し、運営委員会の審議を経て、学長が委嘱する。

4 ボランティアコーディネーターの任期は、1年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

5 前項の規定にかかわらず、センター長が特に必要と認める場合は、1年未満の任期を定めることができる。

6 第4項の規定にかかわらず、センターの助手がボランティアコーディネーターとなる場合の任期は、当該助手としての在職期間とする。

7 ボランティアコーディネーターは、再任されることができる。

8 第1項の規定により、外部の専門家をボランティアコーディネーターとして委嘱した場合は、学校法人青山学院謝礼等の支給基準に関する内規の定めにより、報酬・謝礼を支給することができる。

[学校法人青山学院謝礼等の支給基準に関する内規]

(センター助手)

第9条 センターの助手（以下「センター助手」という。）は、学校法人青山学院助手に関する就業規則（以下「助手に関する就業規則」という。）の定めるところにより雇用され、センターに所属する本学の専任教員とする。

[学校法人青山学院助手に関する就業規則（以下「助手に関する就業規則」という。）]

(センター助手の職務)

第10条 助手に関する就業規則第4条第3項の規定によるセンター助手の職務は、同条第1項に規定するものに加えて、次のとおりとする。

[助手に関する就業規則第4条第3項] [助手に関する就業規則第4条第1項]

- (1) 第3条に規定するセンター事業に係る業務

[第3条]

- (2) 前号に規定するもののほか、センター長が必要と認めた業務

(センター助手の資格)

第11条 センター助手は、助手に関する就業規則第5条第1項の規定により、青山学院大学専任教員の任用及び昇任に関する規則第2条第5項各号のいずれかに該当するものでなければならない。

[助手に関する就業規則第5条第1項] [青山学院大学専任教員の任用及び昇任に関する規則第2条第5項]

2 前項に規定するもののほか、助手に関する就業規則第 5 条第 2 項の規定によるセンター助手の資格は、ボランティア活動に係る専門的知識を有する者とする。

[助手規則第 5 条第 2 項]

(センター助手の雇用手続)

第 12 条 センター助手の雇用は、次項から第 4 項までの規定による。

2 センター長は、センター助手の候補者の雇用が適当であると認めたときは運営委員会の審議を経て、学長に、センター長による推薦状及び当該候補者の経歴、業績等が明記された書類その他必要と認められる書類を添えて、その候補者の雇用を発議する。

3 学長は、前項の規定による発議を適当と判断したときは、学部長会にこれを付議する。

4 候補者の雇用の決定は、前項の規定により学部長会の審議を経た後、常務委員会及び常務理事会で協議し、理事会の承認を得なければならない。

(センター助手の雇用契約の契約期間等)

第 13 条 センター助手の雇用契約の契約期間、待遇、勤務等については、助手に関する就業規則の定めるところによる。

(運営委員会の構成)

第 14 条 運営委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) 大学宗教部長
- (4) ボランティアコーディネーター
- (5) 本学の職員の中からセンター長が指名する者 若干名
- (6) 事務局長
- (7) 学生生活部長
- (8) 政策・企画部長
- (9) 学務部長
- (10) 相模原事務部長

2 センター長は、必要があると認める場合は、前項各号に規定する委員に加えて、外部の専門家若干名を委員として委嘱することができる。

3 前項及び第 1 項第 5 号に規定する委員の任期は、1 年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前項の委員は、再任されることができる。

5 運営委員会に委員長 1 名を置き、第 1 項第 1 号に規定する委員をもってこれに充てる。

(運営委員会の招集、開催、表決数等)

第 15 条 運営委員会は、委員長が招集し、議長となる。

2 運営委員会は、年 2 回以上定期的に開催する。ただし、委員長が必要と認めたときは、随時開催することができる。

3 運営委員会の開催は、委員の 3 分の 2 以上の出席を必要とする。この場合において、運営委員会で審議する事項につき、書面をもってあらかじめ意思を表示した者は、出席者とみなす。

4 運営委員会の議決は、出席した委員の過半数の賛成を必要とする。

5 委員長は、必要があると認める場合は、委員以外の者を列席させ、意見を聴くことができる。

(運営委員会の審議事項)

第 16 条 運営委員会は、次の事項を審議する。

- (1) センターの運営等に係る基本方針に関すること。
- (2) センターの予算及び決算に関すること。
- (3) センター長、副センター長及びセンター助手の人事に関すること。
- (4) ボランティアコーディネーターの委嘱、任期等に関すること。
- (5) 前各号に規定するもののほか、実務委員会から付議されたこと。

(実務委員会の構成及び開催)

第 17 条 実務委員会は、次の委員をもって構成する。

- (1) センター長
- (2) 副センター長
- (3) ボランティアコーディネーター
- (4) 学生生活部から 若干名
- (5) 学務部教務課から 若干名
- (6) 国際部国際交流課から 若干名
- (7) 相模原事務部から 若干名
- (8) 本学の職員の中からセンター長が指名する者 若干名
- (9) 学生スタッフの代表

2 センター長は、必要があると認める場合は、前項各号の委員に加えて、外部の専門家若干名を委員として委嘱することができる。

3 第1項第4号から第9号までに規定する委員の任期は、1年とする。ただし、前任者が任期の途中で退任した場合の後任者の任期は、前任者の残任期間とする。

4 前項の委員は、再任されることができる。

5 実務委員会は、センター長が必要に応じて招集し、議長となる。

6 センター長は、必要があると認める場合は、委員以外の者を列席させ、意見を聴くことができる。

(実務委員会の業務)

第18条 実務委員会は、次の事項について協議し、その執行に当たる。

- (1) センターの事業計画等に関すること。
- (2) センターが行うボランティア活動に係る企画、立案及び実施に関すること。
- (3) 外部の組織及び機関との連携に関すること。
- (4) センターの予算の執行に関すること。
- (5) 学生スタッフに関すること。
- (6) 前各号に規定するもののほか、センターの運営等に必要なこと。

2 センター長は、必要があると認める場合は、前項の規定による協議の結果を、運営委員会に報告する。

(学生スタッフ)

第19条 センター長は、必要があると認める場合は、センターに学生スタッフを置くことができる。

2 学生スタッフは、実務委員会の委員の指示により、センターの活動に係る補佐業務に当たる。

3 前項の補佐業務は、無償とする。

4 学生スタッフは、本学の学部又は大学院研究科に在籍する学生で、センターの活動への参加を希望する者の中から、センター長が任命する。

(所管)

第20条 この規則は、学生生活部が所管する。

2 センターの運営等に係る事務は、学生生活部学生生活課及び相模原事務部学生生活課が所管する。

(改廃手続)

第21条 この規則の改廃は、運営委員会及び学部長会の意見を聴いた後、常務委員会で協議し、理事会の承認を得て、学長がこれを行う。

附 則

この規則は、2016年11月25日から施行し、2016年10月1日から適用する。

附 則（2018年1月25日）

この規則は、2018年4月1日から施行する。

附 則（2018年6月18日）

この規則は、2018年6月19日から施行し、2018年4月1日から適用する。

附 則（2019年3月28日）

この規則は、2019年4月1日から施行する。

附 則（2019年12月13日）

この規則は、2019年12月14日から施行する。

5.3 ボランティアセンタースタッフ一覧

運営委員会

センター長（委員長）	飯島 泰裕 教授（社会情報学部）
副センター長	大宮 謙 教授（社会情報学部）
大学宗教部長	塩谷 直也 教授（法学部）
ボランティアコーディネーター	秋元 みどり 助手
	佐藤 亜希 助手
	島崎 由宇 助手
	中尾 匠吾（学生生活部学生生活課）
	三神 憲一 助手
事務局長	馬場 俊和
学生生活部長	内山 吉嗣（～ 2021.5.31）
	馬場 修二（2021.6.1 ～）
政策・企画部長	金子 絹子
学務部長	馬場 俊和（兼務～ 2021.5.31）
	乃美 浩一（2021.6.1 ～）
相模原事務部長	原 啓（～ 2021.5.31）
	田口 知博（2021.6.1 ～）

実務委員会

センター長（委員長）	飯島 泰裕 教授（社会情報学部）
副センター長	大宮 謙 教授（社会情報学部）
ボランティアコーディネーター	秋元 みどり 助手
	佐藤 亜希 助手
	島崎 由宇 助手
	中尾 匠吾（学生生活部学生生活課）
	三神 憲一 助手
学生生活部（学生生活課）	斉藤 恭子（～ 2021.5.31）
	中尾 匠吾（2021.6.1 ～兼務）
（スポーツ支援課）	芦田 太郎
学務部教務課	基 修二
国際部国際交流課	瀧澤 雄河
相模原事務部（学生生活課）	松本 宏美
（学務課）	工藤 智美
学生スタッフの代表	小田 佳祐（法学部 法学科）

学生スタッフ

共同代表	小田佳祐	田中杏花	柳原果歩
スタッフ	中山侑姫 谷川彰 水留悠理 荒谷与音 野村明音	川杉麻衣 在本茉由 松本晃一 福井咲希 小出七海	笹田まどか 安藤紗希 野呂郁翔 近江悠 中村一太

5.4 ボランティアセンターを支えてくださった皆様

(順不同・敬称略)

【提携・協力団体】

東京都社会福祉協議会 東京ボランティア・市民活動センター
渋谷区
渋谷区社会福祉協議会
しづやボランティアセンター
株式会社 I V Y C S
宮城県塩竈市
日本財団学生ボランティアセンター
災害救援ボランティア推進委員会
相模原市緑区役所
相模原市社会福祉協議会
一般社団法人藤野観光協会
全国キャラバンメイト協議会
日本サービス・ラーニング・ネットワーク (JSLN)
Aoyama Second Chance
NPO 法人ジエールエム・インスティテュート
地球環境パートナーシッププラザ
株式会社ピリカ
一般社団法人平和村ユナイテッド
なな山緑地の会
学校法人アジア学院
NPO 法人 GLOBE JUNGLE
Canossa Youth Volunteer (CYV)
Canossa Health Social Center Brgy
NPO 法人アジアキリスト教教育基金 (ACEF)
NPO 法人 Child Fund Japan
NPO 法人みんなのうちに
社会福祉法人さぼうと21
社会福祉法人ふれあい館
一般社団法人ありがとうの種 あ〜とん塾
こどもテーブル恵比寿ママ食堂
こども食堂渋谷区おばさん
認定 NPO 法人全国こども食堂支援センター・むすびえ
一般社団法人シブヤフロント
金沢アート工房
認定 NPO 法人ぱれっと
一般社団法人ユニバーサルマナー協会
NPO 法人ピアサポートネットしづや
一般財団法人渋谷区観光協会
一般社団法人渋谷未来デザイン
全国労働者共済生活協同組合連合会 (こくみん共済 coop)
神奈川県立高浜高等学校
NPO 法人チーム浅沼屋 for children and ALS
株式会社こみふく
株式会社ファイブスター

【お世話になった皆様】

ポートランド州立大学パブリックサービス研究実践センター
Collaborative Schools Networks
DHURMUS SUNTALI FOUNDATION
相模原市立共和中学校
一般社団法人東京ヒューマンライブラリー協会
パラスポーツを応援する草の根運動の会（渋谷）
NPO 法人 MERRYPROJECT
青山学院大学手話部
青山学院大学クリエイティブチーム（A.C.T.）
日本 NPO センター
東北学院大学地域連携センター

**AOYAMA GAKUIN
UNIVERSITY
VOLUNTEER CENTER**

発行日：2022 年 7 月 11 日

発行者：青山学院大学シビックエンゲージメントセンター